



# 子どものフィジカルリテラシー 習得に関する家庭環境調査

JSC情報・国際部 情報戦略事業資料

(2023年3月)

# 目次

- ▶ フィジカルリテラシーについて
- ▶ JSC子どものフィジカルリテラシー習得に関する家庭環境調査について
  - ▶ 量的調査/オンラインアンケート
    - ▶ (2018年調査)
    - ▶ (2022年調査)
  - ▶ 質的調査/ デプスインタビュー
    - ▶ (2020年調査)
  - ▶ まとめ・提言

# フィジカルリテラシーについて

# 現代における「リテラシー」とは

『さまざまなことを理解したり、創造したり、かわったりする能力。  
さらに、人間が自らの目標や目的を成し遂げるために知識や技能を高めたり、  
共同体やより広い社会に対して貢献し続けたりすることを可能にさせる能力』

- **社会でよりよく生きていくためには必須の能力**

古くは ... よみかきそろばん  
現代なら ... ITリテラシー/メディアリテラシー 等

- **基礎的な学習のニーズ**

高尚な文学を読みこなすためではなく、  
「新聞」や「帳簿」のように、日常生活に必要なもの

- **生まれながらに自然に備わっているものではなく、  
良い指導によって育まれ、使いこなせるようになるもの**

読み書きそろばんのために  
寺子屋が設置されたのと同じ

全ての子どもに  
「教育を受ける権利」

日本国憲法第26条  
国連社会権規約第13条



リテラシーとは  
習って（習えば）  
身につくもの

勉強も運動も、  
できるかどうかは生まれた後の環境、  
つまり『やるかどうか』

飲み込みの早い子、遅い子といった差はあるものの、  
生まれつきなんでもできる子はいない

- 深代教授 (東京大学) スポーツ庁 *Deportare* (2019)  
<https://youtu.be/9vckB9JMphE>

[参考]

- 樋口とみ子「ユネスコにおけるリテラシーの概念展開: リフレクト・アプローチに着目して」『カリキュラム研究』21 (2012): 46.
- 金森強「『literacy:リテラシー』とは何を意味するのか」日本英語検定協会オンライン記事 (2014年8月)。

# 第3期スポーツ基本計画（2022年～）における フィジカルリテラシー

## 第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策

(1)多様な主体におけるスポーツの機会創出 ② 学校や地域における子供・若者のスポーツ機会の充実と体力の向上

b.子供・若者の日常的な運動習慣の確立と体力の向上 -- 今後の施策目標

✓ 体育・保健体育の授業等を通じて、運動好きな子供や日常から運動に親しむ子供を増加させ、生涯にわたって運動やスポーツを継続し、心身共に健康で幸福な生活を営むことができる資質や能力（いわゆる「フィジカルリテラシー」）の育成を図る。

その結果として、

- 1週間の総運動時間(体育授業を除く。)が60分未満の児童の割合を12%(令和3年度)から半減、生徒の割合を13%(令和3年度)から半減、
- 卒業後にも運動やスポーツをしたいと「思う」「やや思う」児童の割合を86%(令和3年度)から90%以上に、生徒の割合を82%(令和3年度)から90%以上に増加、
- 新体力テスト33の総合評価がC以上である児童の割合を68%(令和3年度)から80%以上に、生徒の割合を75%(令和3年度)から85%以上に増加

を目指す。

# 諸外国における フィジカルリテラシー概念の状況

- 言葉としては、米国マサチューセッツ州の教育委員会 (1883年) が初出
- 英国・ホワイトヘッド博士 (1993年) - 理論枠組みの第一人者
  - 体育が嫌いな子供も、運動・スポーツの恩恵を享受して、よりよい人生 (人としてのあり方) を実現できる
- ユネスコ (1995年)
  - よい教育プログラムの賜物 (指導効果として測定できるもの)
- 米国 : SHAPE America (全米保体教職員協会)
  - 全米学校体育スタンダード “National PE Standards” では、体育授業の指導成果は、児童・生徒のフィジカルリテラシー習得度であるとの位置づけ。子どものフィジカルリテラシー習熟度を、教員が具体的に評価できるようになることに力が入れられている。
    - <https://www.shapeamerica.org/standards/pe/>
- カナダ / 豪州
  - 生涯スポーツ参画の実現・実践にむけ、机上の理論ではなく、現場の実務家も活用できるようにするために、関係者みんなで議論して、フィジカルリテラシーの意義や定義やスキルの構成領域を決めている
    - ▶ カナダでは - スポーツ界主導 (Sport for Life)  
<https://physicalliteracy.ca/>
    - ▶ 豪州 - 政府主導 (Australian Sport Commission)  
<http://www.sport.gov.au/physical-literacy>

日本ではまだ、土着化に向けた  
国ぐるみの議論は行われていない

## Whitehead 博士

- ◆ 実存主義に基づく
- ◆ 幼児期の運動の重要性
- ◆ 人々の運動離れへの懸念
- ◆ 学校体育のハイパフォーマンス傾向への継承 (三上、2021)
- ◆ 「土着化」 -- 各国ごとに関係者が集まって議論を重ね、その文化や風土も踏まえて、みんなが共有できるような枠組みを作ることを推奨
- ◆ 「国際化」 -- 諸外国の好事例参照、各国において最低限含まれるべき共通内容の把握 (岡出、2022)

## 参考 :

- 三上純「Margaret Whiteheadによる『身体リテラシー』概念の検討：日本における議論の動向を踏まえて」『スポーツ教育学研究』41 巻 2 号 (2021 年) p. 35-48。
- 岡出美則「フィジカルリテラシー概念の国際化と土着化」日本スポーツ教育学会第42回大会口頭発表 (2022年9月25日)

# JSC「子どものフィジカルリテラシー獲得に関する家庭環境調査」における定義

フィジカルリテラシーとは  
生涯にわたるスポーツ参画を通じ、  
心身ともに健康で幸福な社会生活を  
営む上で持っておくべき基礎的素養\*

\* Whitehead, カナダ、豪州などの定義をもとに、  
JSCで作成 (2019)



(c) 日本スポーツ振興センター

フィジカルリテラシーは、これまで日本で  
行われてきた「幼児期運動指針」に基づく  
様々な取組とも、なじみのよいものです。

フィジカルリテラシー概念の第一人者で  
あるWhitehead博士が言うように、今後  
日本の関係者が寄り合って定義を議論し、  
決定されることが望まれます。



文科省  
「幼児期運動指針」

ガイドブック 1)

日本スポーツ協会  
「アクティブ・チャイルド  
・プログラム」



ガイドブック  
「みんなで遊んで元気アップ！」 2)



日本レクリエーション協会  
「親子でげんきアップ！」

参考資料  
「おやこでタッチ！」 3)

イラスト出典：

- 1) [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/undousisin/1319772.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm)
- 2) <https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html?mid=4316#guide10>
- 3) <https://kodomo.recreation.or.jp/download2/>

# 本調査におけるフィジカルリテラシー スキルの構成領域

\* カナダ、豪州などの枠組みをもとに、JSCで作成  
(2018)

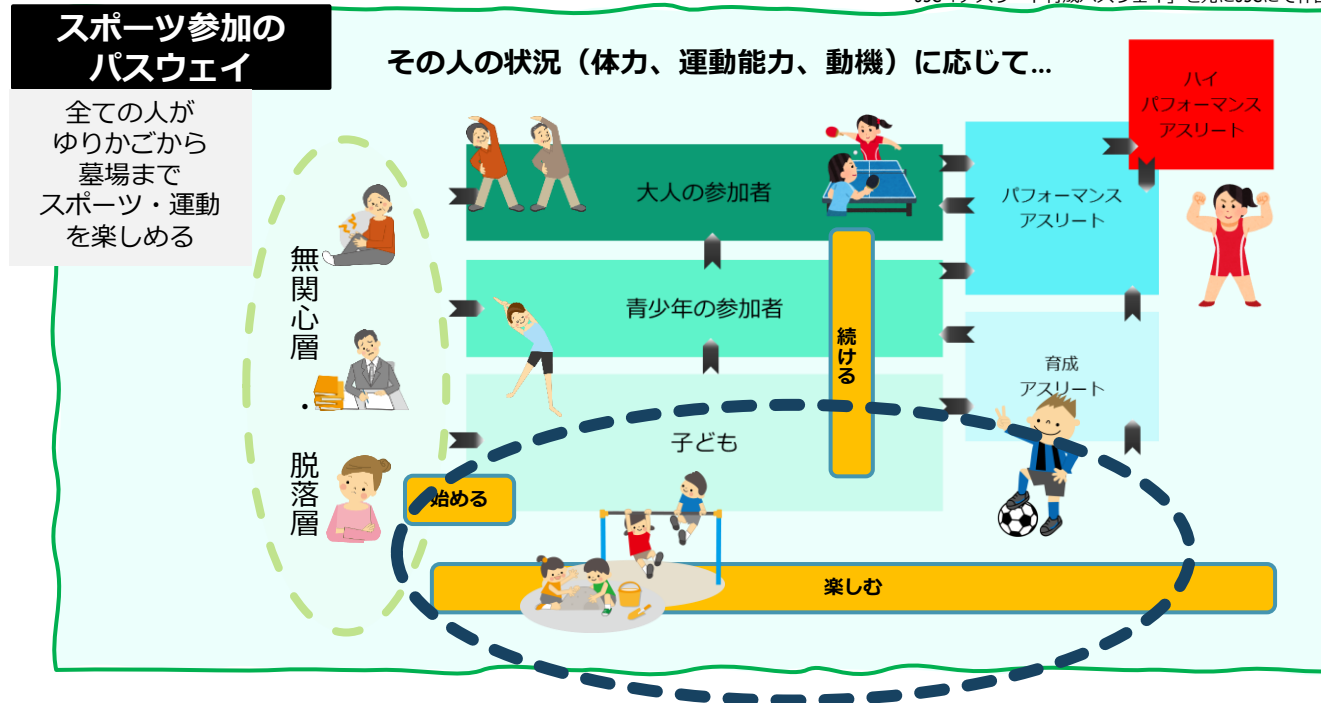




# 生涯スポーツ参加のために

スポーツや健康に親しむための知識・心理・社会性は、いくつになっても磨くことが大切だが、具体的にスポーツをするための基礎的な身体の動きだけは、幼児期でないと身につかない。

International Sport Coaching Framework (ICCE, 2012) 、  
JSC「アスリート育成パスウェイ」を元にJSCにて作図



幼児期のうちに、学校・地域・家庭で、楽しみながら  
フィジカルリテラシーを身に着ける機会の確保が必要

# JSCインサイト： 子どものフィジカルリテラシー 習得に関する家庭環境調査

(第3期スポーツ基本計画. p33)

**国は、地方公共団体や民間事業者等に対し、**障害の有無や性別等にかかわらず幼児期からの運動習慣を形成するため、

- **保護者・保育者等**に対し、幼児期における運動の重要性や安全にスポーツを実施できる施設等に関する**情報発信**を行えるよう支援するとともに、
- **幼児期運動指針やアクティブ・チャイルド・プログラムの活用等**を通じた**運動遊びの機会の充実**を促進する。

# 子どものスポーツ機会と 家庭・学校・地域

## 先行研究からわかっていること

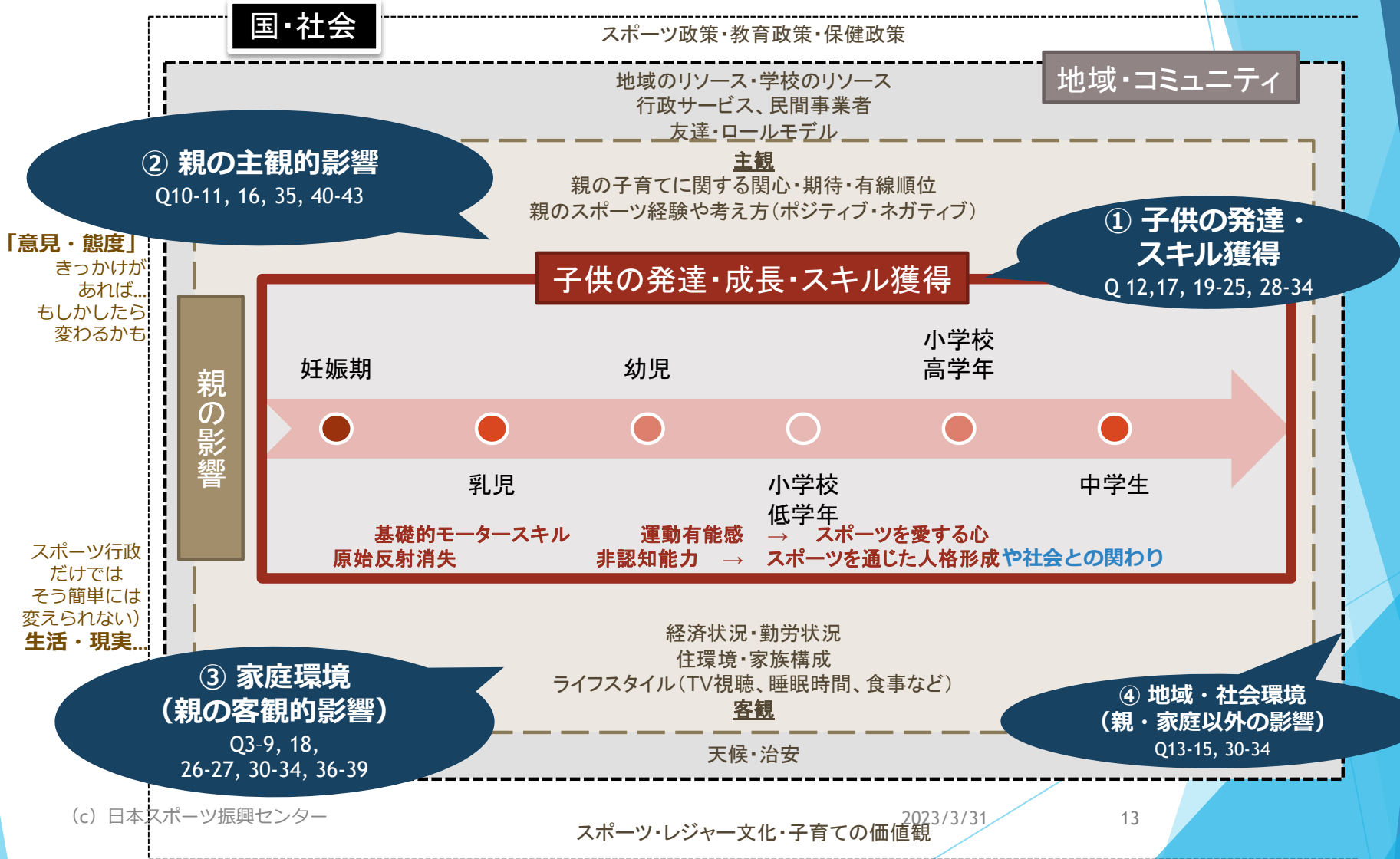
- ▶ 日本の親が地元の青少年スポーツに子供を送らない最大の理由は、子供がやりたがらないこと。(ベネッセ,2009; 宮本2019, 2021)
- ▶ しかし、社会経済的要因による、子どものスポーツ参加の地域・家庭格差は存在する。
  - ▶ 子どもの体力の関連要因として、「親の運動嗜好」「子どもの肥満度」「家庭の社会経済的状況」という、諸外国同様の因子が抽出された(長野・足立、2018)。
  - ▶ 世帯収入や居住地域、人種などにみる子どもの運動格差が、コロナ禍によって拡大している(スポーツ・イングランド、2021)。
- ▶ とはいえ多くの親は、子どもの健康や幸福を願い、時間やお金の許す限り、子どもの希望を叶えようとする。
  - ▶ 子育て世代におけるライフイベントは、生活の上で大きな変化と負担をもたらす。もともと運動嗜好が高い親でも、自身の運動習慣を保持するのは容易ではない。しかし親が運動嫌いでなければ、自身が運動を実施できなくとも、何らかの形で子どもの運動支援が行われている可能性は高い(長野、再掲)
  - ▶ 親のほとんどが、子供に身体を活発に動かす機会を与えることによって、子供のスポーツスキルを可能な限り向上させることを望んでいる。(ASC, 2015)
  - ▶ 授業以外のスポーツ活動(学校運動部活動や地域スポーツクラブなど)に我が子を参加させている家族にとって、かなりのレベルの感情的・実質的負担がかかっているケースも少なくない。(宮本、再掲)

# リサーチクエスチョン

- ▶ 子どものフィジカルリテラシー習得の機会を少しでも増やすためには、**我が子を地域や学校のクラブ・スクール（以下、地域スポーツ）に参加させていない保護者に対して、自治体や地域スポーツ関係者がどのような支援や働きかけを行えば、保護者が子どもたちを参加させられるようになるか（あるいは参加させても良いと思うようになるか）**について、理解を深める必要がある。
- ▶ そのためには、まず、親と子の家庭生活・行動様式に寄り添った生活の実態・本音を把握することが必要となる。かかる生活者の本音の追求、すなわちインサイト分析はもともと消費者マーケティングの手法であるが、英米においては公衆衛生など人々の日常的な行動に深くかかわる公共政策領域でも、積極的に活用することに関心が高まっている。(Sport Australia, 2015; Sport England, 2016)。
- ▶ そこで本調査では、スポーツに限らず広く親子を取り巻く家庭生活や子育てについての実態把握を目的とする調査を、行うこととし、以下の二つをリサーチクエスチョンとした。
  - ① **家庭生活の限られたお金や時間の中で、子どものスポーツや健康は、実際にはどのくらい優先されているのか。**
  - ② **親は子どものスポーツや健康について、どのくらい知識や関心があるのか。**
  - ③ **東京2020大会やコロナ禍によって、これらの事柄に変化がおきたか。**

# 仮説：フィジカリティ形成における子どもへの影響モデル（案）

① 期待される結果 ⇔ ②～④ 影響するもの



## JSCインサイト：子どものフィジカルリテラシー習得に関する家庭環境調査（2018/22）

【目的】 現在、我が子を地域スポーツ活動に参加させていない保護者に対して、**自治体や地域スポーツ関係者がどのような支援や働きかけを行えば、保護者が子どもたちを参加させられるようになるか（あるいは参加させても良いと思うようになるか）**について、理解を深めること。

### 知りたいこと

- 既存の子ども向けプログラムの集客効果をあげるようなマーケティングのあり方。
- → “ 実施効果をあげるための少年団やや家庭への介入のあり方。

### リサーチクエスト

- 保護者は子どものスポーツや健康について、どのくらい知識や関心があるのか。
- 現実には家庭生活の限られたお金や時間の中で、それらがどのくらい優先されているか。
- 東京2020大会やコロナ禍によって、これらの事柄に変化がおきたか。

アクティブ・  
チャイルド・  
プログラム<sup>1)</sup>



親子でげんき  
アップ！<sup>2)</sup>



スポーツ未関心層家庭からの回答も得るために、マーケティング調査会社が保有する消費者パネルを利用し、オンラインアンケートを行う。調査の性質上、子どもの運動嗜好がある程度固まっており、かつ保護者がそれを振り返り可能であると思われる年代として、5歳から15歳の子どもの持つ男女を対象とする。

- 業務委託先: (株) ショッパーズアイ社 -- パネル調査の画面作成、実施、分析、サマリーレポート
- 回答者: 5-15歳の子供を持つ全国の男女 (子供が複数いる場合は末子について)
- 回収サンプル数: 1,000
- 実施時期:
  - 2018年11月16日 (金) ~18日 (日)
  - 2022年3月14日 (月) ~16日 (水)
- 既存の回答者属性情報: 性別、年齢、居住地 (都道府県)、職業、未既婚、子供の有無
- 質問項目: スクリーニング+ 本調査40問

- 本研究におけるオンラインパネル調査は、(独) 日本スポーツ振興センター情報・国際部情報戦略課の事業として実施し、調査設計には中村宏美、河原工、木村良輔が加わった。また結果分析には、藤田峻介が加わった。なお岡出美則教授 (日本体育大学)、青野博室長代理 (日本スポーツ協会) に、調査設計に関するご助言をいただいた。
- 調査にあたっては、国立スポーツ科学センターの倫理審査を受けた。

イラスト出典:

- 1) <https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html?mid=4316#guide10> 2) <https://kodomo.recreation.or.jp/download2/>

# オンラインアンケートの構成

|    | 説明変数  | 目的変数   |
|----|---|--|
| 客観 | <ul style="list-style-type: none"> <li>性別、年齢、居住地 (都道府県)</li> <li>職業世帯、収入</li> <li>未既婚、子供の有無</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの習い事について (Q12～Q16)               <ul style="list-style-type: none"> <li>習っている (習わせたい) 習い事、実際にかけている費用や時間、そのうちスポーツ関連の習い事が占めている時間 など</li> </ul> </li> </ul>                     |
| 主観 | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活や子育てについて(Q3～Q11)               <ul style="list-style-type: none"> <li>健康三原則の実践状況、家庭の決まり事、</li> <li>子育て上の価値観、親自身の地域参画状況 など</li> </ul> </li> <li>親の子どもスポーツへの主観(親はどう関わるべきか) など (Q31)</li> <li>親の運動やスポーツについて (Q32～Q39)               <ul style="list-style-type: none"> <li>親のスポーツ歴、親のスポーツTV観戦時間、</li> <li>親の運動時間 (親単独/ 子どもと一緒に)</li> <li>親の運動主観 (好きか嫌いか、クラブなどへの誘引・阻因)</li> <li>親のスポーツへの主観 (する・みるスポーツに期待する価値観) など</li> </ul> </li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの運動やスポーツについて(Q17～Q31)               <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども自身の運動時間 (通学/ 遊び/ クラブや部活)、強度・レベル</li> <li>子どもの運動主観 (好きか嫌いか、クラブなどへの誘引・阻因)</li> </ul> </li> </ul> |
| 注  | <ul style="list-style-type: none"> <li>親の子どもスポーツへの主観(親はどう関わるべきか - Q31) の質問内容は、以下を参照に作成した。               <ul style="list-style-type: none"> <li>日本スポーツ協会「アクティブ・チャイルド・プログラム」の「指導者と保護者のためのチェックリスト」(注1)</li> <li>日本レクリエーション協会「おやこ元気アップ! 事業」の「おやこでタッチ!」(注2)</li> </ul> </li> <li>本調査は保護者に対するオンラインアンケートという特性上、子供の体力や運動スキル、日ごろの運動強度などを器械で測定したデータを用いることができない。また回答者(保護者であって青少年スポーツの専門家とは限らない)による目視の内容に頼らざるを得ないため、なるべくわかりやすい項目とする必要があった。具体的には以下を用いることとした。               <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの運動スキル(体幹やコーディネーション)：自転車に乗れるかどうか(Q19)、普段から何かにぶつかったり、転んだりしてけがをすることはないか(Q20)</li> <li>子どもの自由な遊び時の運動強度：自由に運動や体を動かす遊びをするときの友達の数(Q18)</li> <li>子どもの運動有能観や運動感情：日本スポーツ協会「アクティブ・チャイルド・プログラム」の「ポジティブ感動尺度テスト小学生用(日本スポーツ協会提供)</li> </ul> </li> </ul> |  |
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>注1：日本スポーツ協会 <a href="https://www.japan-sports.or.jp/portals/0/acp/shidousya_checklist.html">https://www.japan-sports.or.jp/portals/0/acp/shidousya_checklist.html</a></li> <li>注2：日本レクリエーション協会 <a href="https://kodomo.recreation.or.jp/pdf/oyako_de_touch_final.pdf">https://kodomo.recreation.or.jp/pdf/oyako_de_touch_final.pdf</a></li> </ul>  |  |

## パネル調査 設問一覧

| Q番号   | 設問文  | 設問タイプ | 区分 |
|-------|--|-------|----|
| Q1.1  | あなたの平日の起床時刻について教えてください。  | SA    | ③  |
| Q1.2  | あなたの休日の起床時刻について教えてください。  | SA    | ③  |
| Q1.3  | あなたのお子さんの平日の起床時刻について教えてください。   | SA    | ③  |
| Q1.4  | あなたのお子さんの休日の起床時刻について教えてください。   | SA    | ③  |
| Q2.1  | あなたの平日の就寝時刻について教えてください。  | SA    | ③  |
| Q2.2  | あなたの休日の就寝時刻について教えてください。  | SA    | ③  |
| Q2.3  | あなたのお子さんの平日の就寝時刻について教えてください。   | SA    | ③  |
| Q2.4  | あなたのお子さんの休日の就寝時刻について教えてください。   | SA    | ③  |
| Q3.1  | あなたのお子さんの平日の朝食について教えてください。   | SA    | ③  |
| Q3.2  | あなたのお子さんの休日の朝食について教えてください。   | SA    | ③  |
| Q4.1  | あなたのお子さんは、TV・DVD・ゲーム機・スマートフォン・パソコンなどの画面を、平日に一日あたりどの程度見ていますか。学校や塾、習い事などで指示されて使っている時間は、含みません。  | SA    | ③  |
| Q4.2  | あなたのお子さんは、TV・DVD・ゲーム機・スマートフォン・パソコンなどの画面を、休日に一日あたりどの程度見えていますか。学校や塾、習い事などで指示されて使っている時間は、含みません。   | SA    | ③  |
| Q5    | あなたのお子さんは、登校・登園時、片道どのくらいの時間、徒歩や自転車移動しますか。保護者の方が抱っこしたり、自転車に乗せたりしている時間は含みません。  | SA    | ③  |
| Q6.1  | 子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／家族で、その日にあったことについて話をする   | SA    | ②  |
| Q6.2  | 子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／親の意見をいう前に子どもの意見を聞いている   | SA    | ②  |
| Q6.3  | 子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／子どもの挑戦や努力をほめるようにしている  | SA    | ②  |
| Q6.4  | 子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／子どもの部活動や習い事のため、家族の都合や生活時間をあわせている  | SA    | ②  |
| Q6.5  | 子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／子どもの希望は、多少無理をしても叶えてあげる  | SA    | ②  |
| Q6.6  | 子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／親子で色々なことを一緒にしたり、見たりするようにしている  | SA    | ②  |
| Q6.7  | 子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。／普段の生活では、家族の健康を一番に優先している   | SA    | ②  |
| Q7    | あなたが子育てで重視すること、お子さんに身につけてほしいと思っていることについて、当てはまるものをすべて教えてください。   | MA    | ②  |
| Q8    | あなたのお子さんの普段の様子について、当てはまるものをすべて教えてください。   | MA    | ①  |
| Q9    | あなたの家や家の近くには、お子さんが体を動かして遊ぶスペースがありますか。遊び場がいくつかある場合は、主に遊んでいる場所についてお答えください。   | SA    | ④  |
| Q10   | あなたは現在、地域活動や社会活動に参加していますか。当てはまるものをすべて選んでください。  | MA    | ④  |
| Q11   | あなたが子育てについて信用する情報源は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。  | MA    | ④  |
| Q12   | あなたのお子さんの習い事や部活動について、現在習っているものをすべて教えてください。自宅内・外を問いません。保護者や家族の方が教えているものも含みます。   | MA    | ①  |
| Q13.1 | 先にお答えになった現在の習い事や部活動について、毎月トータルでどの程度の費用がかかっていますか。体をよく動かすものと、座ったままが多いものに分けて、お答えください。兄弟で合算になっている場合などは、一人当たりの目安でお答えください。衣装や道具、合宿や発表会などの臨時費用がある場合は、おおよその月平均をできる限り含めてください。／体をよく動かす習い事や部活動 ※Q12「習い事をしていない」以外の回答者に対する設問  | SA    | ③  |
| Q13.2 | 先にお答えになった現在の習い事や部活動について、毎月トータルでどの程度の費用がかかっていますか。体をよく動かすものと、座ったままが多いものに分けて、お答えください。兄弟で合算になっている場合などは、一人当たりの目安でお答えください。衣装や道具、合宿や発表会などの臨時費用がある場合は、おおよその月平均をできる限り含めてください。／座ったままが多い習い事や部活動 ※Q12「習い事をしていない」以外の回答者に対する設問 | SA    | ③  |
| Q14.1 | あなたのお子さんは現在、1週間にどれくらいの時間をトータルで習い事に費やしていますか。自宅での予習や練習時間なども含みます。体をよく動かす習い事と、座ったままが多い習い事に分けて、お答えください。／体をよく動かす習い事や部活動 ※Q12「習い事をしていない」以外の回答者に対する設問  | SA    | ①  |
| Q14.2 | あなたのお子さんは現在、1週間にどれくらいの時間をトータルで習い事に費やしていますか。自宅での予習や練習時間なども含みます。体をよく動かす習い事と、座ったままが多い習い事に分けて、お答えください。／座ったままが多い習い事や部活動 ※Q12「習い事をしていない」以外の回答者に対する設問   | SA    | ①  |
| Q15.1 | 過去に習っていたが、現在はやめてしまった習い事や部活動があれば、教えてください。   | FA    | ①  |
| Q16   | あなたがお子さんに習わせたいもの、体験させてみたいものについて、当てはまるものをすべて教えてください。  | MA    | ②  |

- 区分
- ① 子どもの発達・スキル獲得に関する質問
  - ② 親の主観的影響に関する質問
  - ③ 家庭環境 (親の客観的影響)
  - ④ 地域・社会環境 (親・家庭以外の影響)

設問タイプ: SA: Single Answer 択一式  
 MA: Multi Answer 選択式 (複数選択可)  
 FA: Free Answer 自由記述式



(続き)

| Q番号    | 設問文  | 設問タイプ | 区分 |
|--------|--|-------|----|
| Q17.1  | あなたのお子さんは、平日の休み時間や放課後、自由に体を動かす遊びや運動を、1日にどのくらいしていますか。おおよその時間を教えてください。ただし運動関連の習い事や部活動、学校・園の授業やお遊戯など、指導者の指示・指導によるものは含めません。                                | SA    | ①  |
| Q17.2  | あなたのお子さんは、休みの日に、自由に体を動かす遊びや運動を、1日にどのくらいしていますか。おおよその時間を教えてください。ただし運動関連の習い事や部活動、学校・園の授業やお遊戯など、指導者の指示・指導によるものは含めません。                                      | SA    | ①  |
| Q18    | あなたのお子さんは、学校や園の授業やお遊戯以外で、自由に運動や体を動かす遊びをするとき、何人くらいのお友達と一緒に遊んでいますか。  | SA    | ①  |
| Q19    | あなたのお子さんは、自転車に乗ることができますか。  | SA    | ①  |
| Q20    | あなたのお子さんは、普段から何かにぶつかったり、転んだりしてケガをすることはありますか。   | SA    | ①  |
| Q21    | あなたは、あなたのお子さんの体力テストや発育検診の結果を把握していますか。  | SA    | ③  |
| Q22    | あなたは、あなたのお子さんが好きな運動やスポーツを知っていますか。するもの、見るものどちらでも構いません。  | SA    | ③  |
| Q23    | あなたのお子さんが運動しているときの様子を、当てはまるものすべてをお答えください。  | MA    | ①  |
| Q24    | あなたのお子さんは、体力・運動能力に自信があるように見えますか。   | SA    | ①  |
| Q25    | あなたのお子さんは、運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツが好きですか。   | SA    | ①  |
| Q26    | あなたのお子さんが運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツを好きになったと思われるきっかけや影響について、当てはまるものすべてを教えてください。 ※Q25「 <b>そう思う・ややそう思う</b> 」を選んだ回答者に対する設問  | MA    | ①  |
| Q27    | あなたのお子さんが運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをあまり好きでない(嫌いになった)と思われるきっかけや影響について、当てはまるものすべてを教えてください。 ※Q25「 <b>あまりそう思わない・全く思わない</b> 」を選んだ回答者に対する設問                         | MA    | ①  |
| Q28    | あなたのお子さんが現在、運動・スポーツ関係の習い事や活動をしている場合、どこで行っていますか。当てはまるものすべてをお答えください。   | MA    | ①  |
| Q29    | あなたのお子さんが運動部活動や、その他のスポーツクラブ・スクールなどに加入したきっかけについて、当てはまるものすべてを教えてください。  | MA    | ①  |
| Q30    | あなたのお子さんが運動部活動や、その他のスポーツクラブ・スクールに現在入っていない、やりたいのだけれどできない理由について、当てはまるものすべてを教えてください。 ※Q28「 <b>入っていない・入っていたがやめた</b> 」「 <b>やりたいのだけれどできない</b> 」を選んだ回答者に対する設問 | MA    | ①  |
| Q31.1  | 子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／子どもの運動能力は生まれつきにかかわらず、よい指導で伸ばすことができる  | SA    | ②  |
| Q31.2  | 子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／子どもに好きなスポーツを選ばせた方がよい   | SA    | ②  |
| Q31.3  | 子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／運動嫌いでも、無理やり何か運動をさせた方が、子どものためになる  | SA    | ②  |
| Q31.4  | 子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／小さいうちから、いろいろなスポーツを体験した方がよい   | SA    | ②  |
| Q31.5  | 子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／なるべく早いうちからたくさんトレーニングした方が、トップアスリートになれる可能性が高い  | SA    | ②  |
| Q31.6  | 子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／親子が日頃から一緒にスポーツをしたりすることは、子どもの成長にとって大事な  | SA    | ②  |
| Q31.7  | 子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／親が苦手なスポーツや経験したことがないスポーツでも、子どもと一緒にやったり教えたりすべきである  | SA    | ②  |
| Q31.8  | 子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／自分の子どもを指導するコーチと、話をしたり聞いたりすることは大事な  | SA    | ②  |
| Q31.9  | 子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／理由の如何を問わず、子どもや青少年のスポーツで体罰は与えられるべきでない   | SA    | ②  |
| Q31.10 | 子どもや学生のスポーツに関する以下の意見について、あなたの考え方に近いものを、それぞれ選んでください。／運動やスポーツを経験することは、人生の役に立つ  | SA    | ②  |
| Q32    | あなたのこれまで(主に中／高時代)のスポーツ経験について教えてください。   | SA    | ③  |
| Q33.1  | あなたは、スポーツ関連の番組・記事やネットなどの情報などを平日で一日に何時間くらい見ますか。日によって差がある場合は、この1年間のおおよその平均をお答えください。  | SA    | ③  |
| Q33.2  | あなたは、スポーツ関連の番組・記事やネットなどの情報などを休日で一日に何時間くらい見ますか。日によって差がある場合は、この1年間のおおよその平均をお答えください。／あなたの休日のスポーツ関連の番組・記事の視聴時間   | SA    | ③  |
| Q34.1  | あなたの現在の、平日1日あたりのスポーツ・運動時間について教えてください。通勤や家事のための徒歩や自転車は含みません。日によって差がある場合は、この1年間のおおよその平均をお答えください。   | SA    | ③  |
| Q34.2  | あなたの現在の、休日1日あたりのスポーツ・運動時間について教えてください。通勤や家事のための徒歩や自転車は含みません。日によって差がある場合は、この1年間のおおよその平均をお答えください。   | SA    | ③  |
| Q35.1  | あなたの平日の運動時間のうち、お子さんと一緒にいる時間はどのくらいありますか。  | SA    | ③  |
| Q35.2  | あなたの休日の運動時間のうち、お子さんと一緒にいる時間はどのくらいありますか。  | SA    | ③  |
| Q36    | あなたは、スポーツが好きですか。   | SA    | ②  |
| Q37    | あなたご自身が運動やスポーツを好きになったきっかけについて、当てはまるものすべてを教えてください。 ※Q36「 <b>はい</b> 」を選んだ回答者に対する設問   | MA    | ②  |
| Q38    | あなたご自身が運動やスポーツをあまり好きでない(嫌いになった)きっかけについて、当てはまるものすべてを教えてください。 ※Q36「 <b>いいえ</b> 」を選んだ回答者に対する設問  | MA    | ②  |
| Q39    | あなたは、運動・スポーツをすることによって、何を期待しますか。当てはまるものをいくつでもお答えください。広くスポーツ全般について、期待されることをお聞かせください。   | MA    | ②  |

- 区分
- ① 子どもの発達・スキル獲得に関する質問
  - ② 親の主観的影響に関する質問
  - ③ 家庭環境(親の客観的影響)
  - ④ 地域・社会環境(親・家庭以外の影響)

設問タイプ: SA: Single Answer 択一式  
 MA: Multi Answer 選択式(複数選択可)  
 FA: Free Answer 自由記述式

# 調査結果（単純集計表）

- ▶ それぞれのオンラインアンケートの単純集計表（GT表）は、以下よりダウンロードできる。

- ▶ 2018年調査（2018年度）

<https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/gt%20kodomo2018.pdf>

- ▶ 2022年調査（2021年度）

[https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/SPID/research/20220725\\_JSC\\_PLsurveyFY2021\\_GT.pdf](https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/SPID/research/20220725_JSC_PLsurveyFY2021_GT.pdf)

## 2018年結果のサマリー-- 子どものフィジカルリテラシーに影響を与えうる主な要因

### 親の客観的要因：

- ◆ 家庭の収入・時間  
(ある程度の余裕が必要)

### 親の主観的要因：

- ◆ 親の社会関係資本：  
(地域とのつながりや、信頼できる子育て情報源)
  
- ◆ スポーツ・健康・子育て、特に
  - ① 親のスポーツに対する態度や価値観
  - ② 親の子育てへの態度や関心
  - ③ 家庭の普段の生活態度 (健康・幸福)

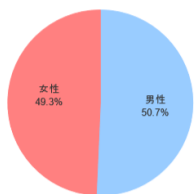
これらの要因が低いと  
子どものフィジカルリテラシーが  
低い傾向

(例)

- 運動好き嫌い (心理面)
- 自転車に乗れるか (身体面)
- 運動系習い事実施 (身体面 / 運動実施機会)

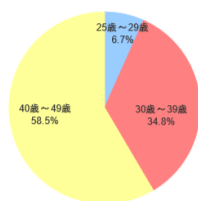
## 2018年調査 回答者 (保護者) の属性 ①

性別



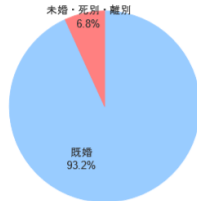
(n=1,000)

年代別



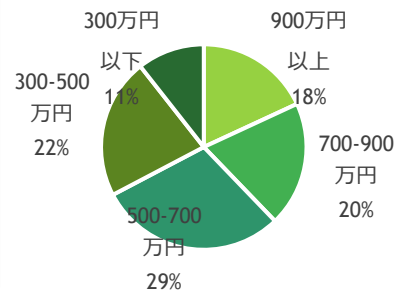
(n=1,000)

婚姻状況

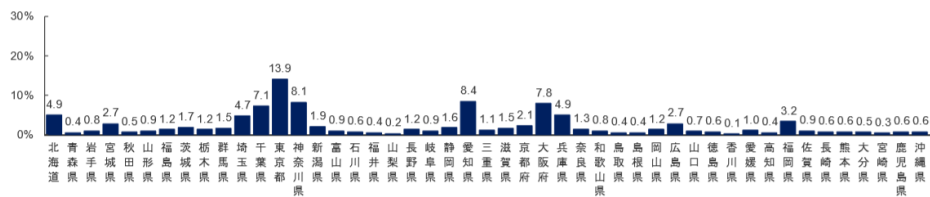


(n=1,000)

世帯収入



居住地



回答者 (親)

- 5-15歳の同居する子どもを持つ, 全国の男女各500人 (合計1,000名)
- 平均年齢 49.0歳

回答対象児童

- -5-8歳 - 415人 (男子221, 女子194)
- 9-12歳 - 358人 (男子166, 女子192)
- 13-15歳 - 227人 (男子113, 女子114)

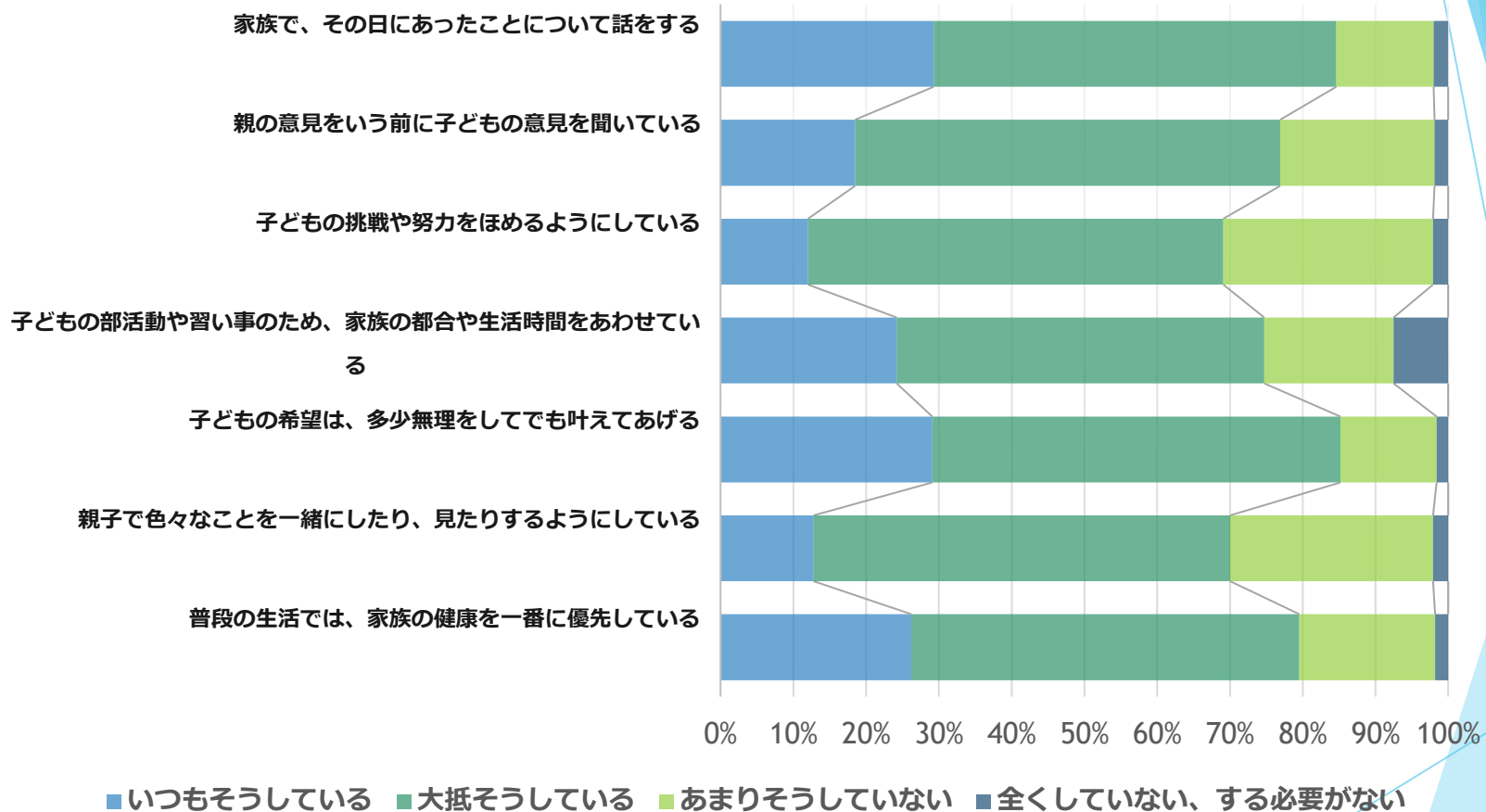
# 親の子育て価値観・ 家庭の日常生活

## 普段の子育てで 親が重視していることや家庭での決まり事

- ▶ アクティブ・チャイルド・プログラムや、おやこ元気アップ！事業などの家庭向けガイドブックなどで示されているアドバイス、例えば「子どもの意見を聞くようにしている」といった親子のかかわり方については、多くの家庭で「そうしている」「いつもそうしている」と答えた人が大半であった。またそれらを実践している人ほど、自分の子どもが運動が得意そうに見える割合が高かった。
- ▶ 「子どもの運動能力は良い指導で伸ばすことができる」という青少年スポーツに関する意見について賛成していない人は、普段から子どもをほめるよう心掛けている割合が低かった。
- ▶ 子どもが習っている、または習わせたい習い事によって、子育てで重視する価値観（子どもに身につけさせたい態度や価値観）が大きく変わるということではなかった。

# 子育てや家庭成果についての価値観

Q6子育てや普段の家庭生活に関する以下の項目について、ご家庭での普段の様子に最も近いものを、それぞれ選んでください。（各項目択一式） n=1,000

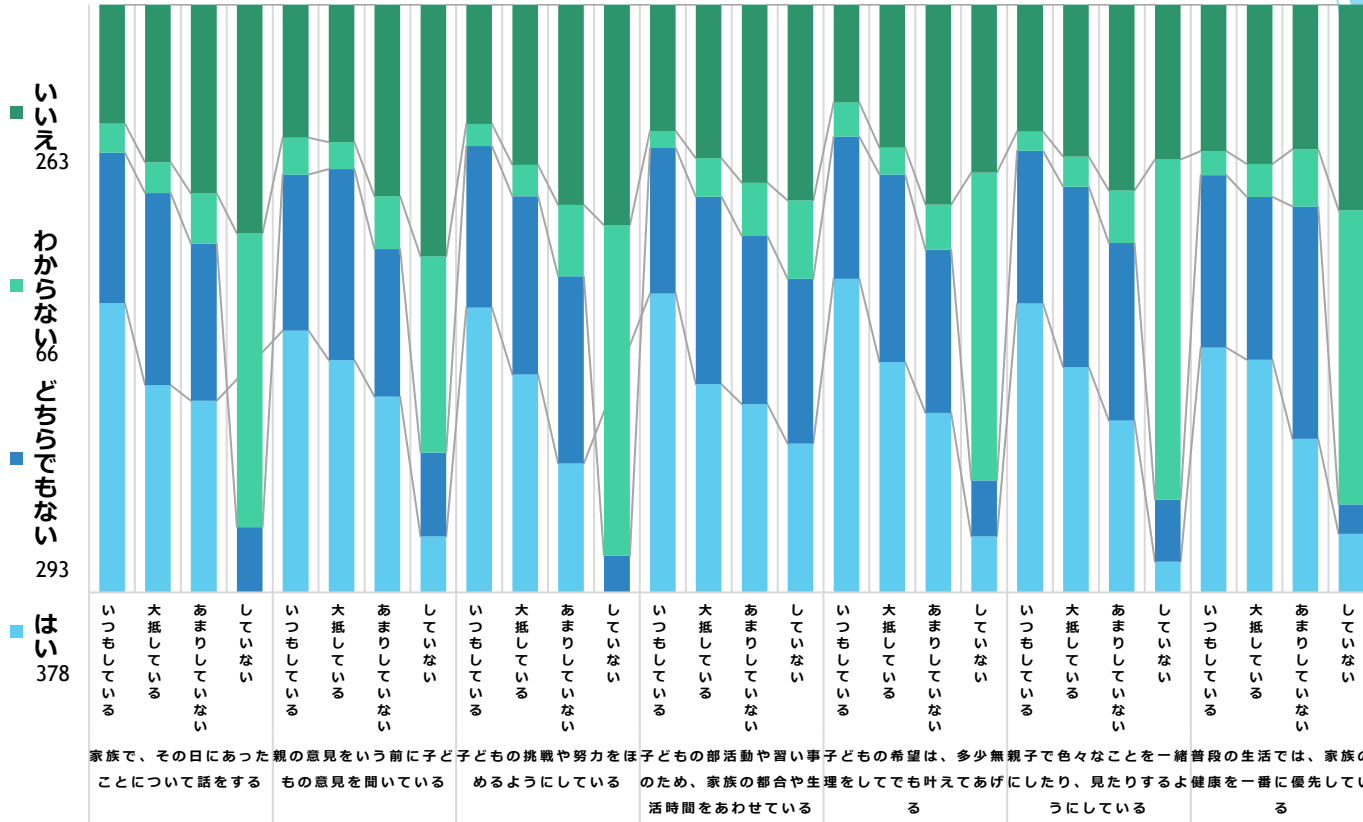


# 子育ての態度・価値観と子どもの運動有能観

n-1,000

(人)

子どもが運動に自信があるように見えるか



(択一式)

家族で、その日にあった親の意見をいう前に子どもの挑戦や努力をほめるようにしている  
 子どもの部活動や習い事のため、家族の都合や生理をしても叶えてあげたり、見たりするよ  
 子どもの希望は、多少無親子で色々なことを一緒に普段の生活では、家族の健康を一番に優先して  
 いる

幼児運動プログラムの保護者向けガイドブックにおける、保護者向けアドバイスの各項目を「していない・あまりしていない」と答えている親は、「自分の子どもが運動に自信があるように見える」と答える割合が低い。

家庭内で重視することや決まり事

(択一式)



# 親が、幼児期に基礎的動作を「教わる」ことが大事だと認識しているか

n=1,000

子どもの良い運動指導能力は生まれつきにできるかわからず

そう思う  
230人

まあそう思う  
588人

あまりそう  
思わない  
151人

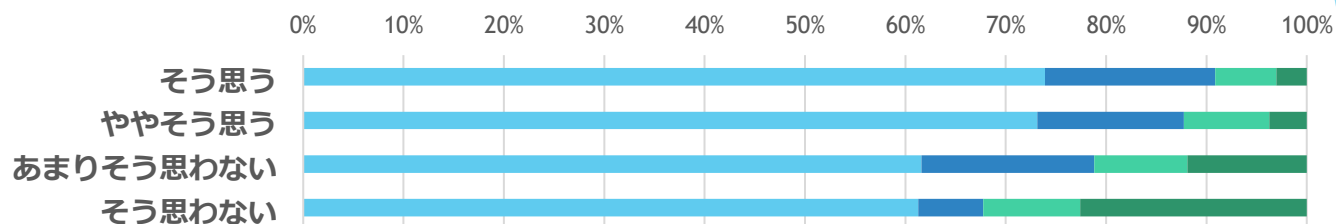
そう  
思わない  
31人

(択一式)

## 子供が自転車に乗れるか

(択一式)

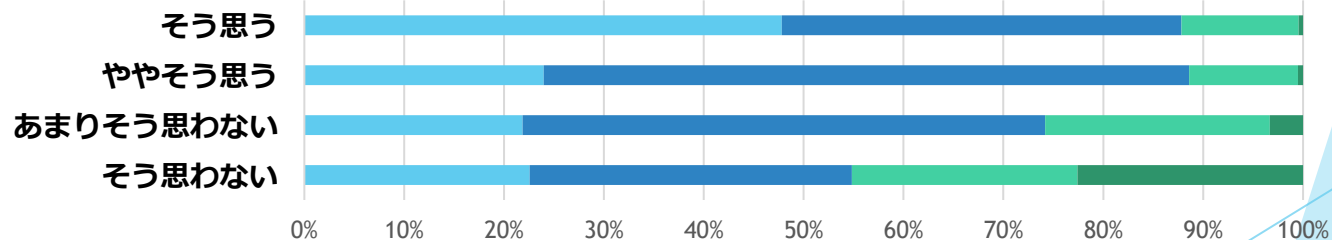
■ 補助輪なしで乗れる ■ 補助輪ありで乗れる ■ 乗れない ■ わからない



## 子供の挑戦や努力を褒めるようにしている

(択一式)

■ いつもそうしている ■ 大抵そうしている ■ あまりそうしていない ■ 全くしていない、する必要がない



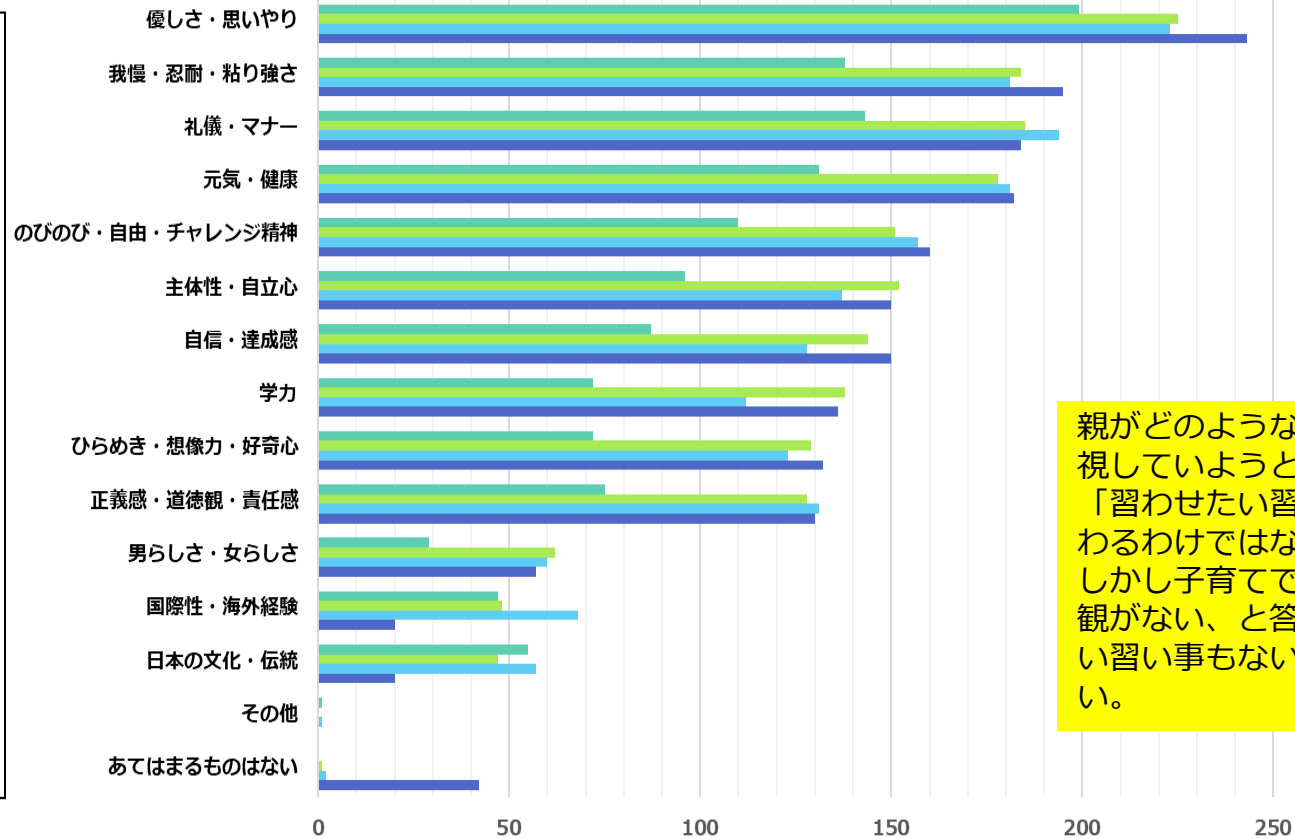
親が、幼児期の運動指導の重要性に賛同していない場合、子供の運動能力を把握していない（自転車に乗れるか知らない）割合が高い。またを普段から子どもをほめるようにしている割合も低い。

## 親が習わせたい習い事 Top 3

- スポーツ・体操・武道を習わせたい (258人)
- 学習塾・そろばん・知育プログラムを習わせたい (276人)
- 英語・外国語を習わせたい (252人)
- 習わせたい習い事：当てはまるものはない (294人)

n=1,000

親が子育てで重視している価値観



親がどのような子育て価値観を重視していようとも、それによって「習わせたい習い事」の傾向が変わるわけではない。しかし子育てで重視している価値観がない、と答えた親は習わせたい習い事もないと答える割合が高い。

# 親のスポーツ観・ 青少年スポーツ観

# 親は子どものスポーツや健康について、どのくらい知識や関心があるのか

- ▶ スポーツそのものについては、多くの人が心身の健康に関する価値を認めているものの、それ以外的人格形成やライフスキル獲得といった側面の効果を認めている人はさほど多くない。
- ▶ 青少年スポーツの意義について、特に自分の子どもがスポーツ系の部活や習い事を実際に行っている親(360人)は、自分のスポーツ嗜好や競技歴を問わず青少年スポーツに肯定的であり、かつそうでない人よりも多様な青少年スポーツの意義を認める傾向にあった。
- ▶ スポーツや子どもの発達・発達についての正しい知識に関しては、例えば青少年スポーツにおける体罰や早期競技特化を容認する回答も見られ、まだ十分に浸透していないことが伺えた。

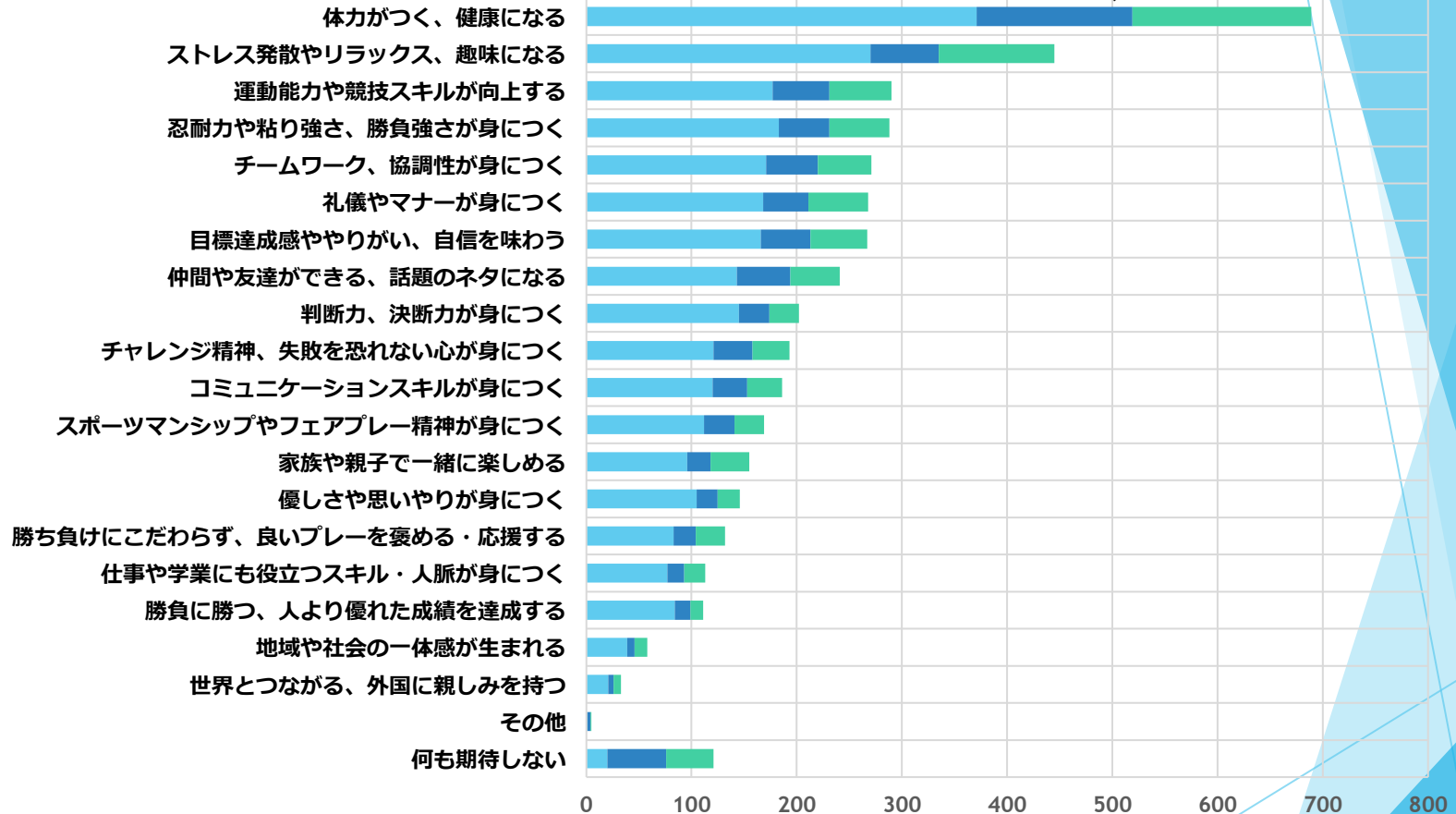
# 親自身がスポーツ好きかどうか

(択一式)

■ はい (492人) ■ いいえ (255人) ■ どちらでもない (253人)

n=1,000

(人)



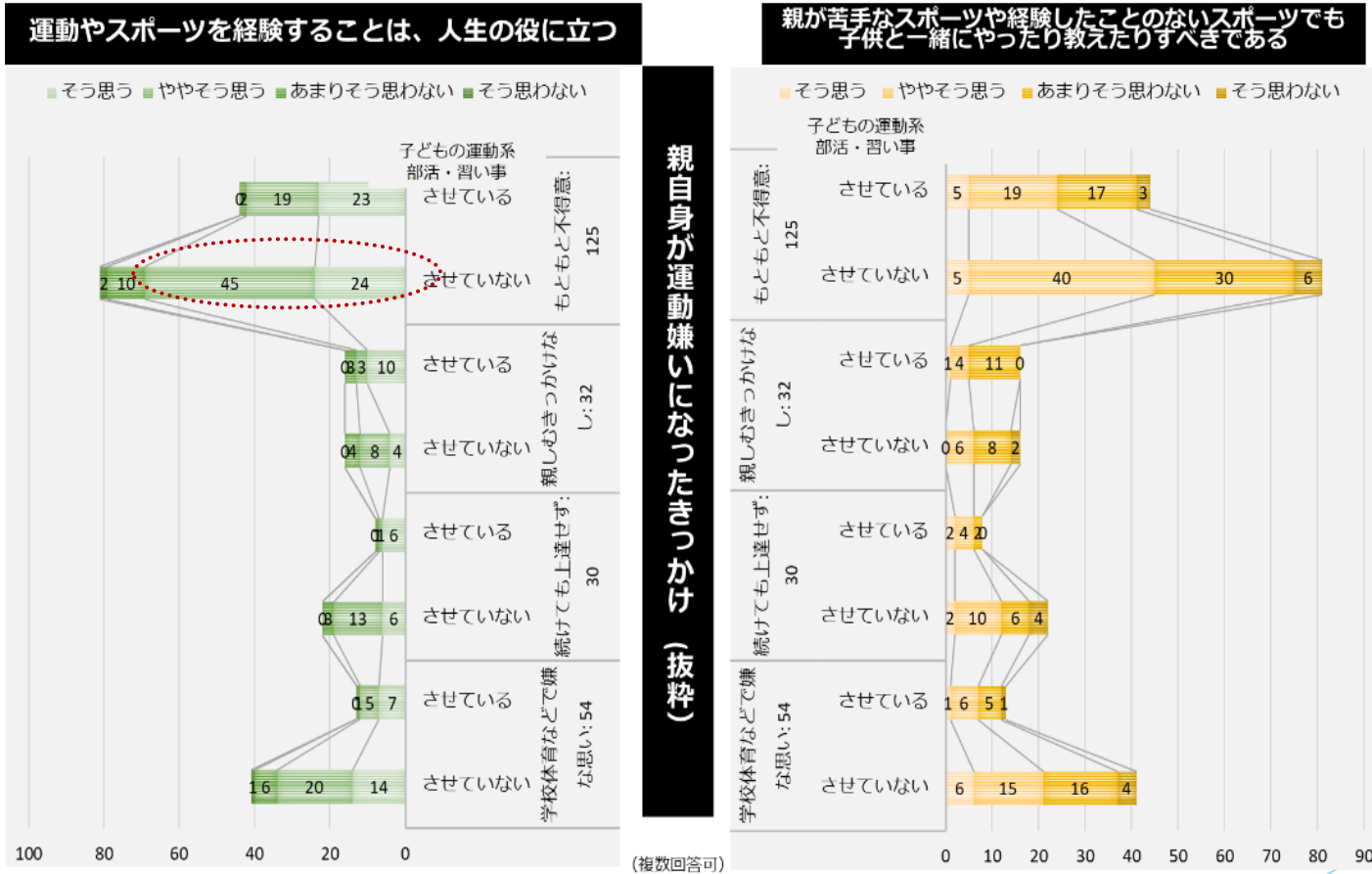
親がスポーツ全般に期待すること

(複数選択可)

# スポーツ嫌いの親（255人）について

- ▶ スポーツ好きでないと答えた親が、自ら子どもと一緒にスポーツをすべきと考える割合は低い。これはスポーツが嫌いになったきっかけが、「もともと苦手・不得手」と回答した人で特に高くなる。
- ▶ スポーツ好きでない理由として、自身が「スポーツに親しむきっかけがなかった(32人)」、「もともと得意ではなかった(125人)」と答えた親の約8割は、「運動やスポーツをすることは人生の役に立つ」といった考えを否定していない。
- ▶ また自身がスポーツに親しむきっかけがなかったと答えた親の50%が、自分の子どもにはスポーツ系の習い事や部活動をさせていることから、たとえ自分が運動嫌いでも、子どもにはスポーツに親しむ機会を拒むものでないことがわかる。
- ▶ 自身がスポーツ好きでない理由が「学校体育やクラブなどで嫌な思いをした」という人については、わが子にスポーツを習わせている割合も3割以下となる。親が子どものスポーツに関わることの意義や必要性を認めている割合も、そうでない人よりも低い。

# スポーツが好きでない親の そのきっかけと、子供のスポーツへの態度



# 子どもの運動実施状況



# 親がどのくらい率先して、子供と一緒にスポーツしているか

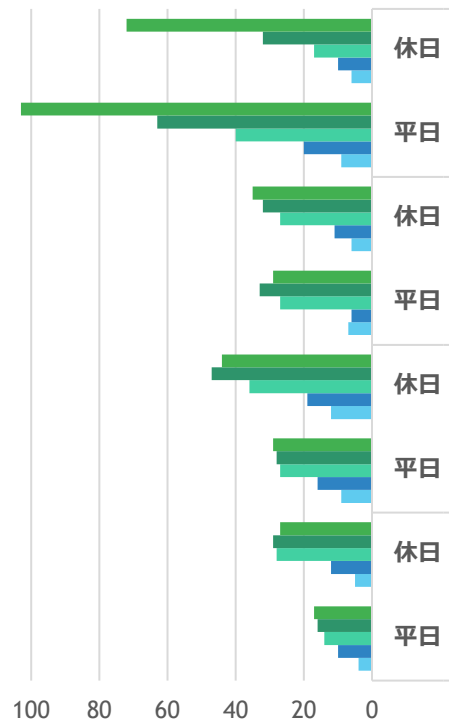
- ▶ 親自身の運動実施状況については「していない」が全体の6割を超えており、国の運動実施率調査における、働き世代の運動不足の結果と一致している。
- ▶ 休日における子どもと一緒にスポーツ実施については、親子の年齢が大きく影響する。「たいてい一緒」「時々一緒」と答えた人は、を5歳児の親 (187人) では約6割であったが、中学生の親 (147人) では約2割を切った。全体では5割を越えなかった。
- ▶ 青少年スポーツに関する価値観に関する設問において、「親子と一緒にスポーツすることは、子供の成長にとって大事だ」と答えた人でも、実際には行動が伴っていないことがわかる。

# 親子一緒に運動頻度/ 1日あたり (n=1000)

親の性別・年代別

男性

女性



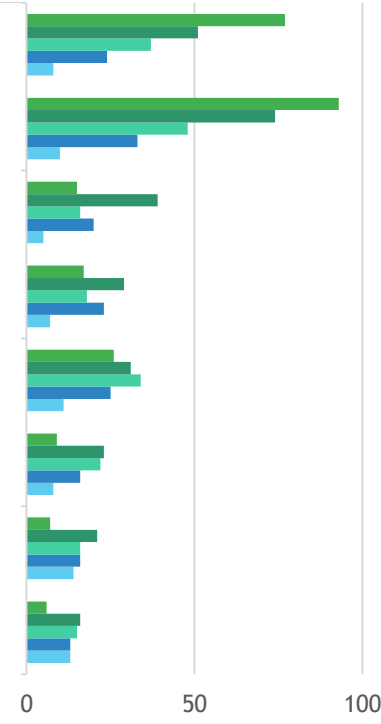
(a)

一緒に  
することは  
ない

あまり  
一緒にでは  
ない

ときどき  
一緒に  
する

たいてい  
一緒に  
する



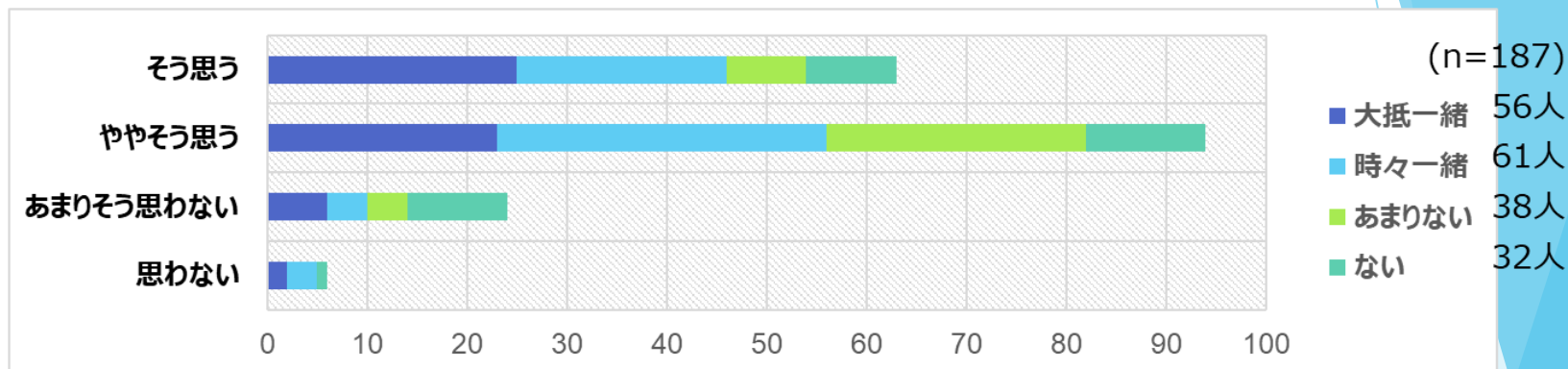
(b)

■ 25-29歳 ■ 30-34歳 ■ 35-39歳 ■ 40-44歳 ■ 45-49歳

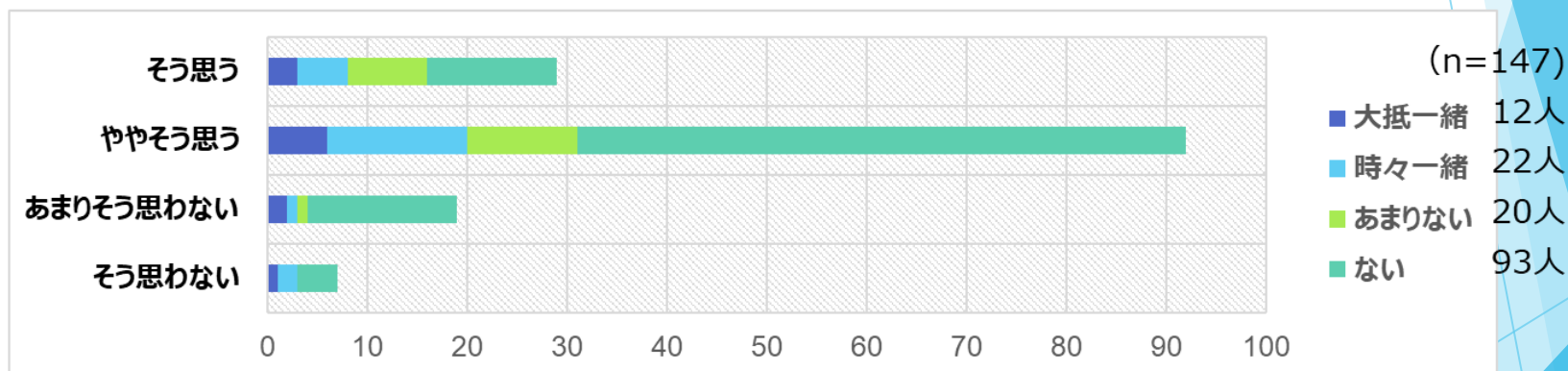
## 「親子一緒にスポーツ実施」：意識と行動のずれ

**親子と一緒にスポーツすることは、子供の成長にとって大事だ**

5歳児のみ



中学生のみ



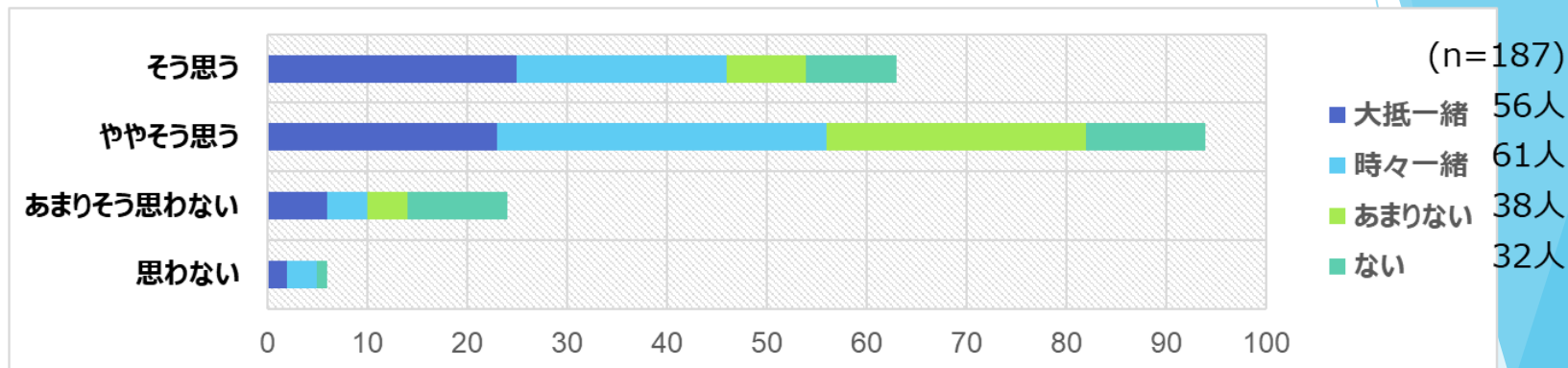
子どもの年齢が上がるほど、親子一緒にの運動頻度は減る。  
子どもが小さく、かつ「親子一緒にスポーツ実施が子供の成長に大事」という意見に賛成していても、それを実践できているわけではない。

**Q 35**あなたの休日の運動時間のうち、お子さんと一緒に  
行っている時間はどのくらいありますか。

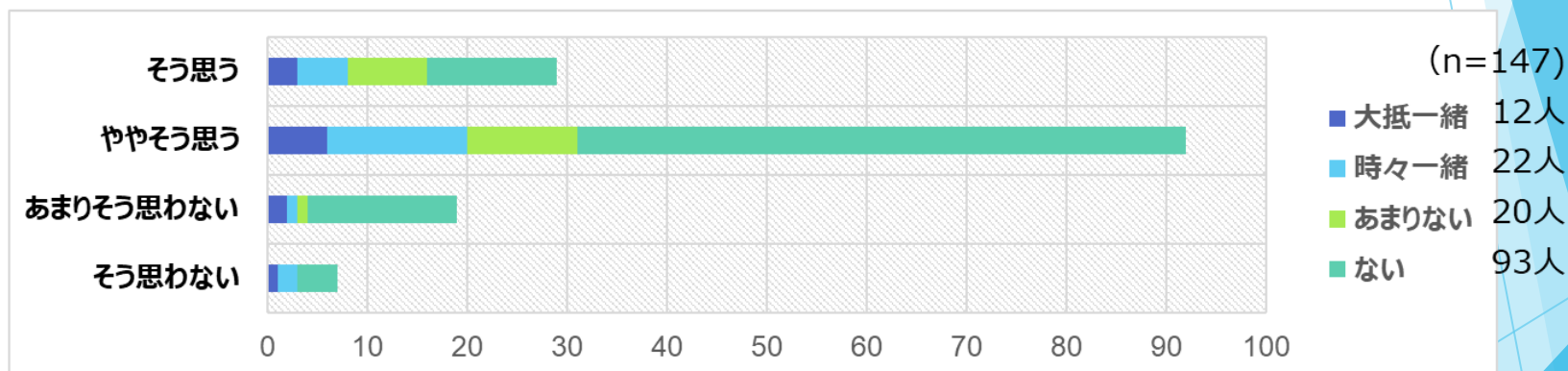
## 「親子一緒にスポーツ実施」：意識と行動のずれ

**親子と一緒にスポーツすることは、子供の成長にとって大事だ**

5歳児のみ



中学生のみ



子どもの年齢が上がるほど、親子一緒にの運動頻度は減る。子どもが小さく、かつ「親子一緒にスポーツ実施が子供の成長に大事」という意見に賛成していても、それを実践できているわけではない。

Q 35あなたの休日の運動時間のうち、お子さんと一緒にやっている時間はどのくらいありますか。

# 習い事の実施状況

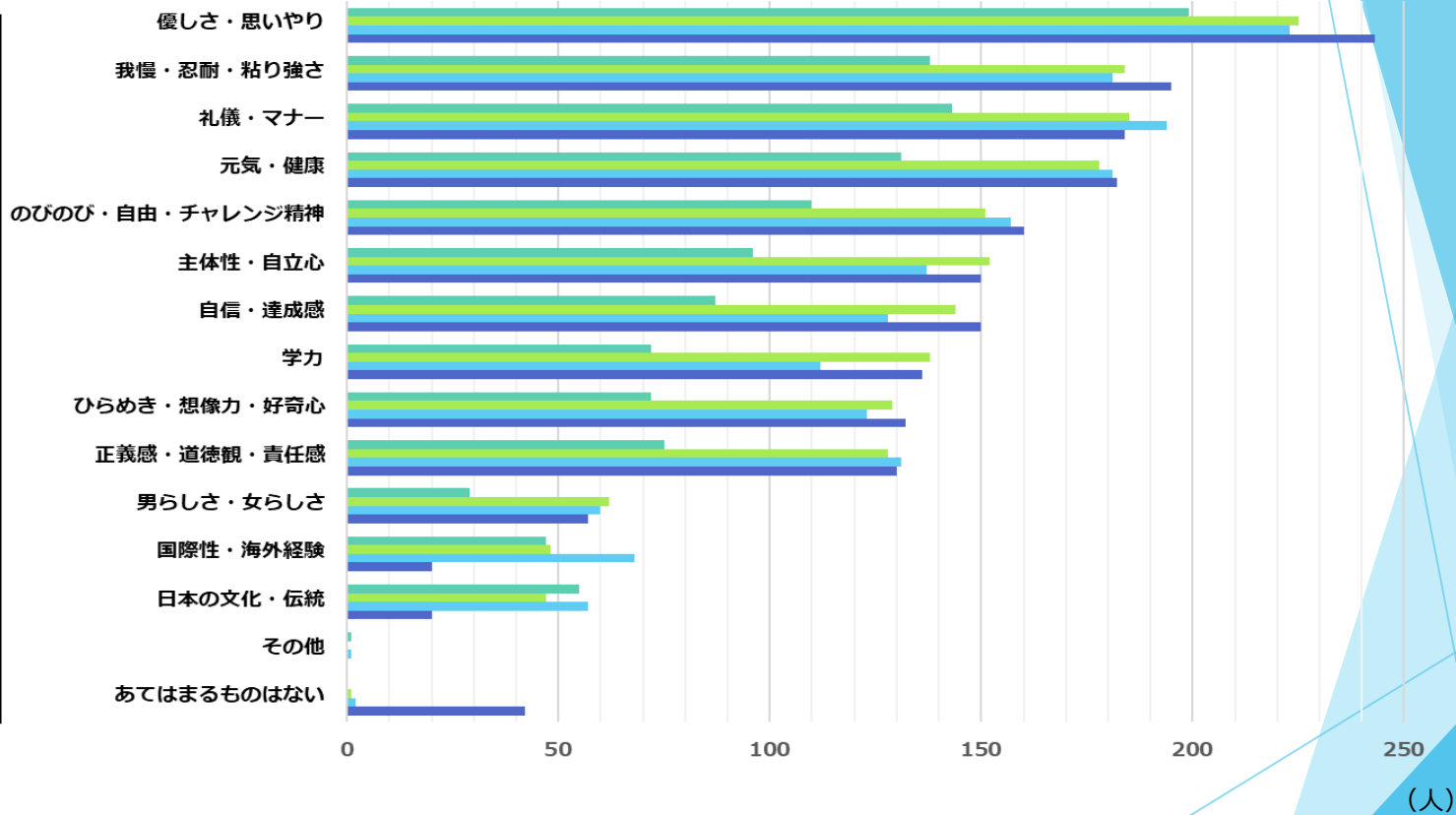
- ▶ 多くの親が、学習塾や英会話などと並び、スポーツ系の習い事や部活動を、「実際に習っている」「習わせたい」ものの、いずれにも挙げている。
- ▶ 習い事の実際の実施状況については、子どもで年齢状況が変わる。
- ▶ 子どもがスポーツ系の部活や習い事をやっていない、あるいはやめた理由として親があげたものは、子どもの年代を問わず「子どもがやりたがらないから」が最多であり、小学校低学年の時点で既に3割を占める。その一方で、一定の世帯収入以下では、費用負担や送り迎えの時間といった、親の客観的要因についても無視することはできない。ただし収入が低くても、座学系の習い事に月謝を習を払っている例も見られた (グラフ4参照)。
- ▶ 地域とのつながりや信頼する子育て情報源を持っていない親との場合、そうでない親に比べ、子どものスポーツ系習い事を「やりたいのだけどできない」という割合が高かった。

### 親が習わせたい習い事 Top 3

n=1,000

- スポーツ・体操・武道を習わせたい (258人)
- 学習塾・そろばん・知育プログラムを習わせたい (276人)
- 英語・外国語を習わせたい (252人)
- 習わせたい習い事：当てはまるものはない (294人)

### 親が子育てで重視している価値観



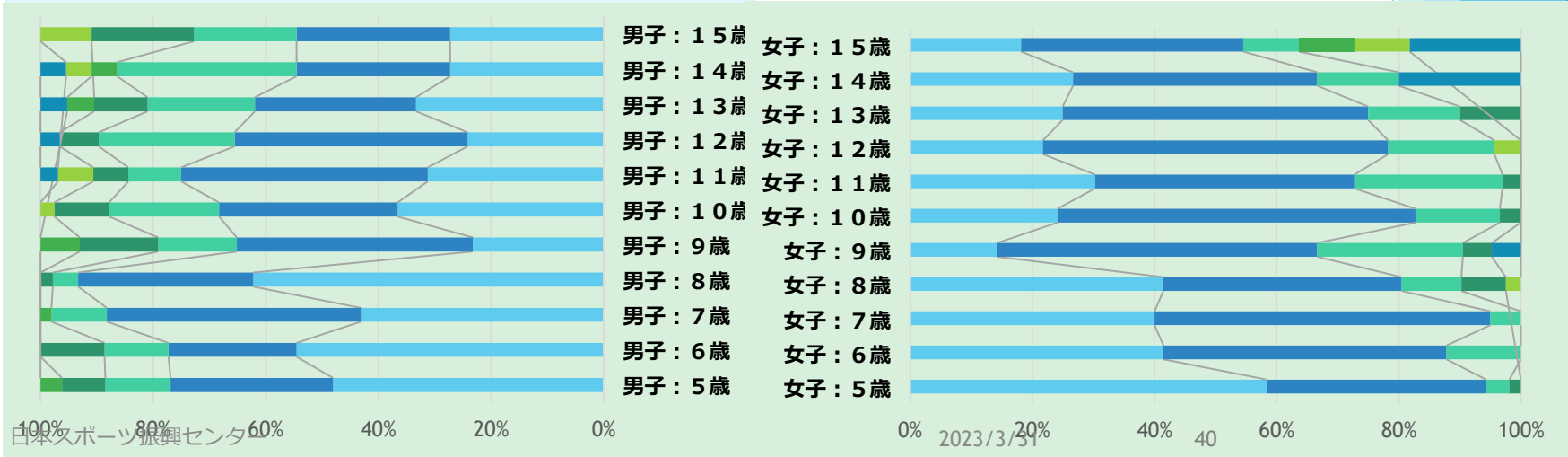
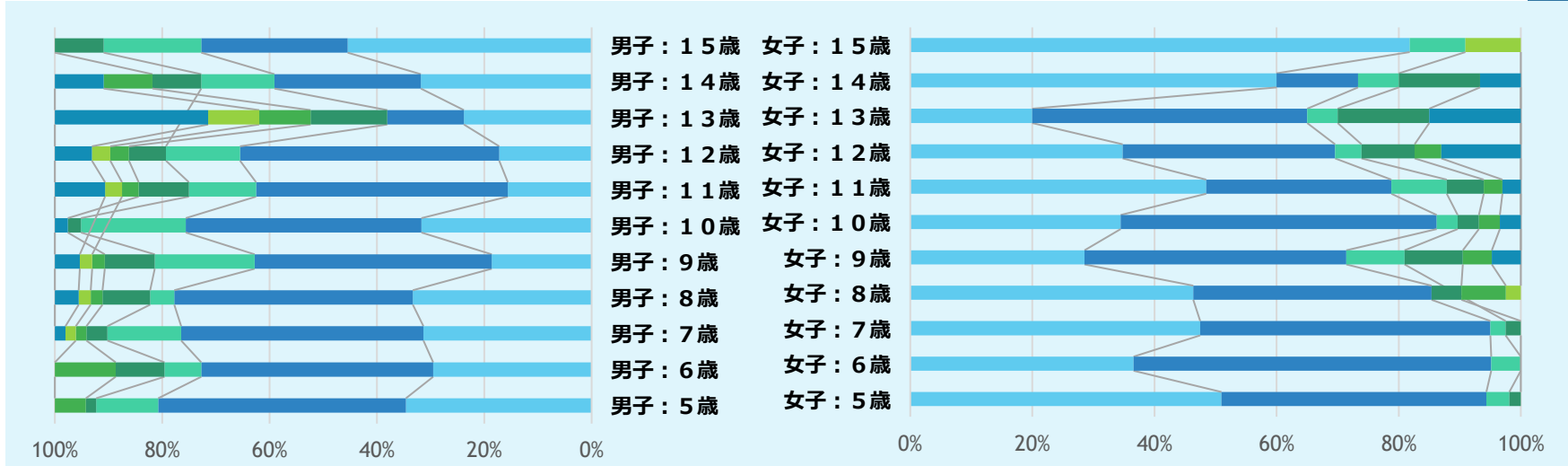
# 習い事や部活の週時間 (n=718人) : 子供の年齢別

- 0 ~ 1 時間未満
- 1 時間 ~ 3 時間未満
- 3 時間 ~ 5 時間未満
- 5 時間 ~ 7 時間未満
- 7 時間 ~ 9 時間未満
- 9 時間 ~ 11 時間以上
- 11 時間以上

(n=718人)  
 ※対象児童が現在なにも習い事をしていないと答えた親は、含まれない

体をよく動かす習い事

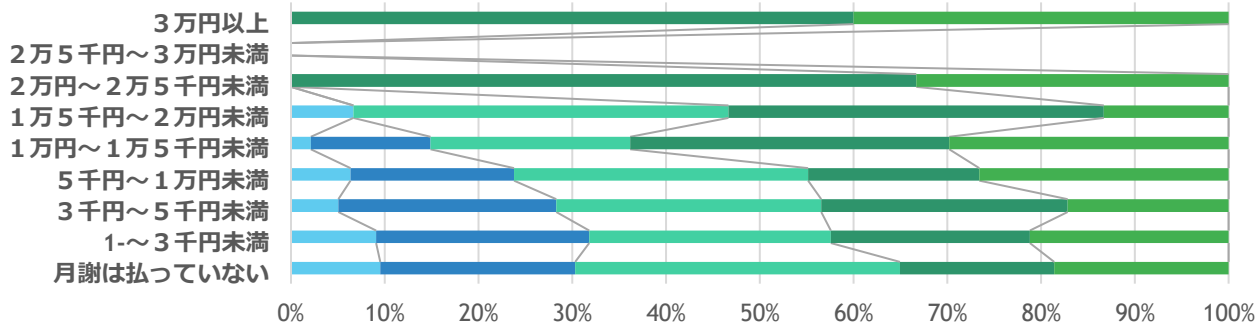
座ったままが多い習い事



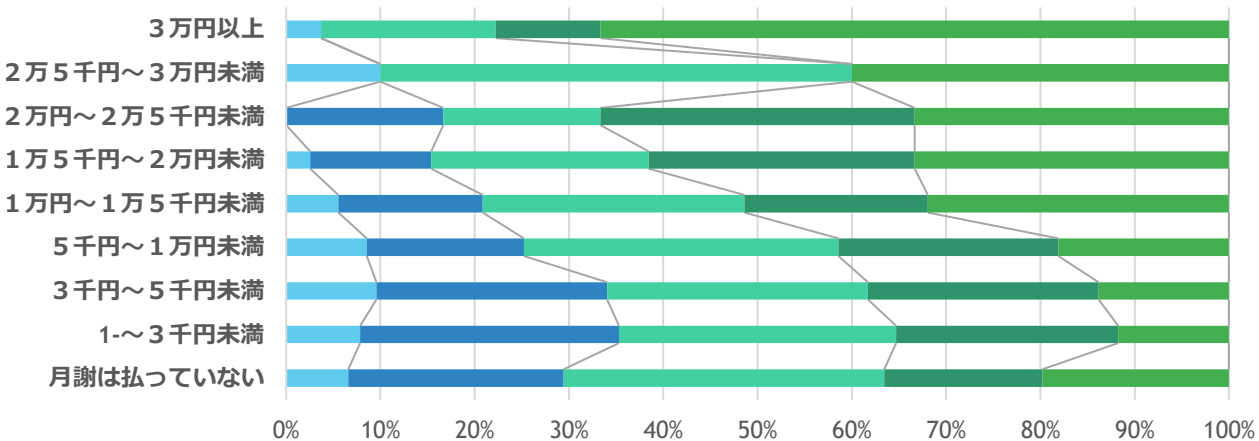
# 習い事や部活の出費 (n=718人) : 世帯年収別

■ -300万円 ■ 300-500万円 ■ 500-700万円 ■ 700-900万円 ■ 900万円-

体をよく動かす習い事



座ったままが多い習い事



(n=718人)

※対象児童が現在なにも習い事をしていないと答えた親は、含まれない

■ -300万円 ■ 300-500万円 ■ 500-700万円 ■ 700-900万円 ■ 900万円-

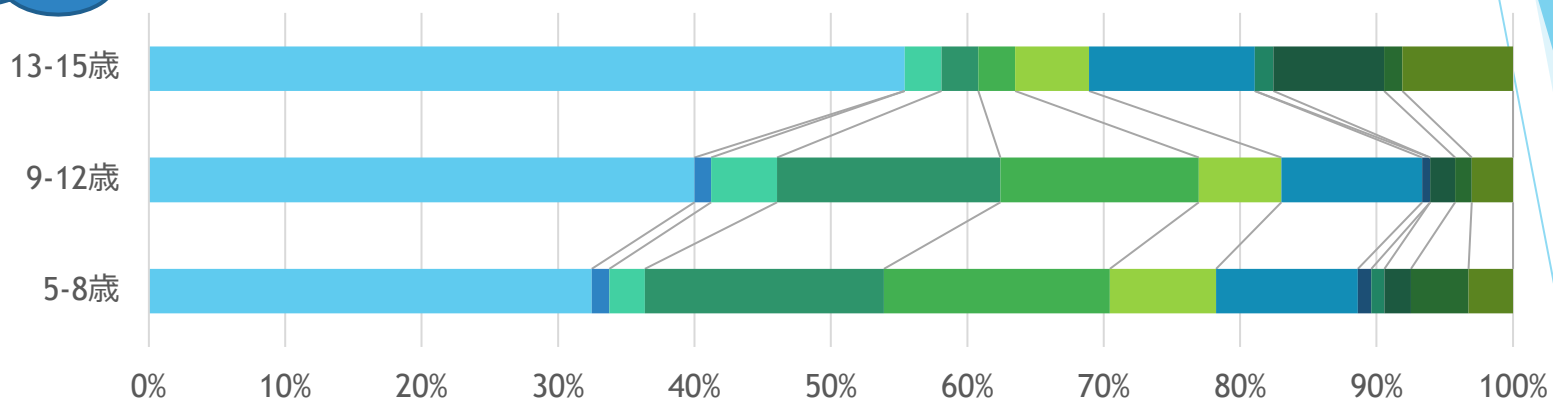
世帯収入



## 運動系の部活や習い事をしていない理由（428人）

子どもの  
年齢別

Q30 あなたのお子さんが運動部活動や、その他のスポーツクラブ・スクールに現在入っていない、やりたいのだけどできない理由について、当てはまるものをすべて教えてください。（MA）



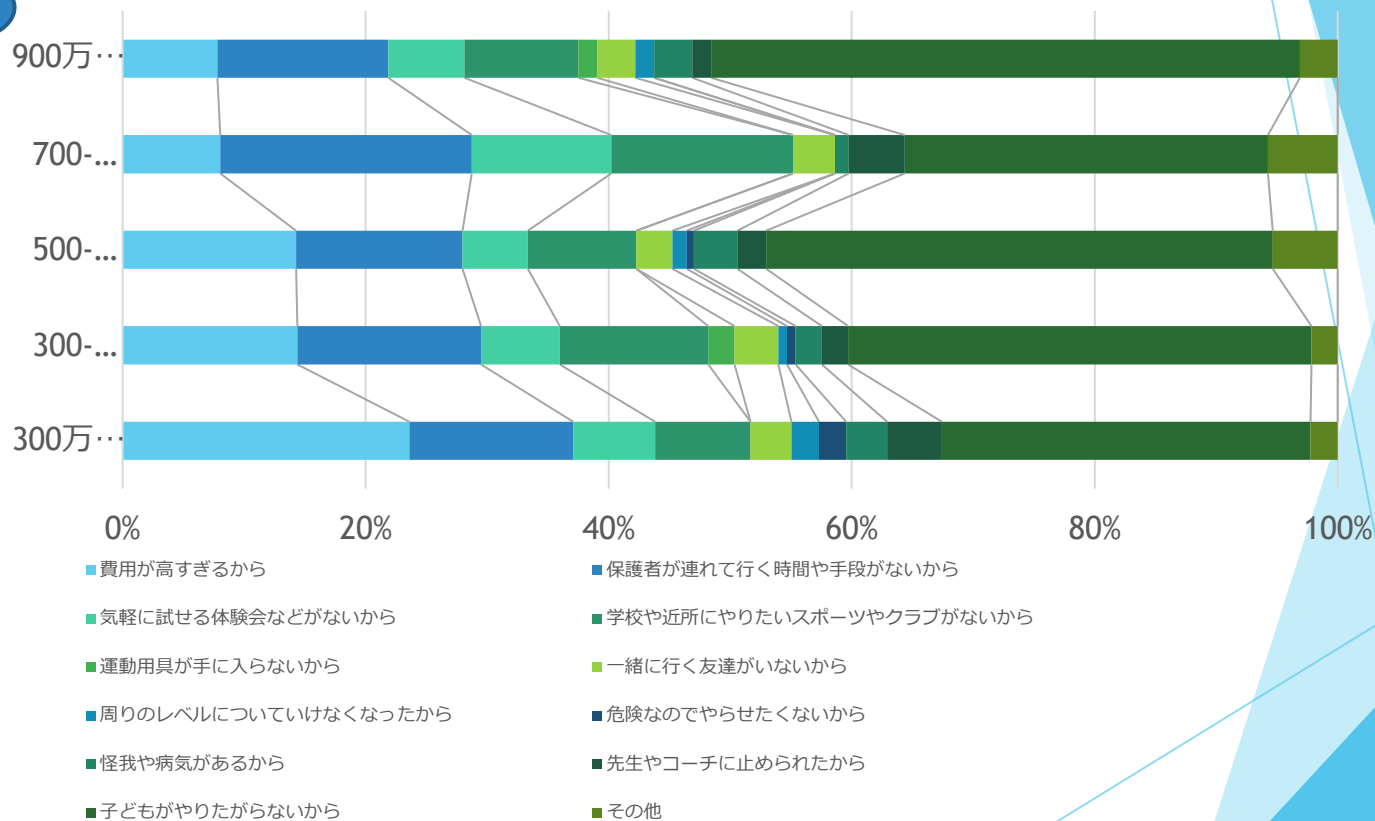
- 子どもがやりたがらないから
- 一緒に行く友達がないから
- 費用が高すぎるから
- 学校や近所にやりたいスポーツやクラブがないから
- 危険なのでやらせたくないから
- 先生やコーチに止められたから
- 周りのレベルについていけないから
- 保護者が連れて行く時間や手段がないから
- 気軽に試せる体験会などがないから
- 運動用具が手に入らないから
- 怪我や病気があるから
- その他

# 運動系の部活や習い事をしていない理由（428人）

Q30 あなたのお子さんが運動部活動や、その他のスポーツクラブ・スクールに現在入っていない、やりたいのだからできない理由について、当てはまるものをすべて教えてください。（複数回答可）

世帯年収別

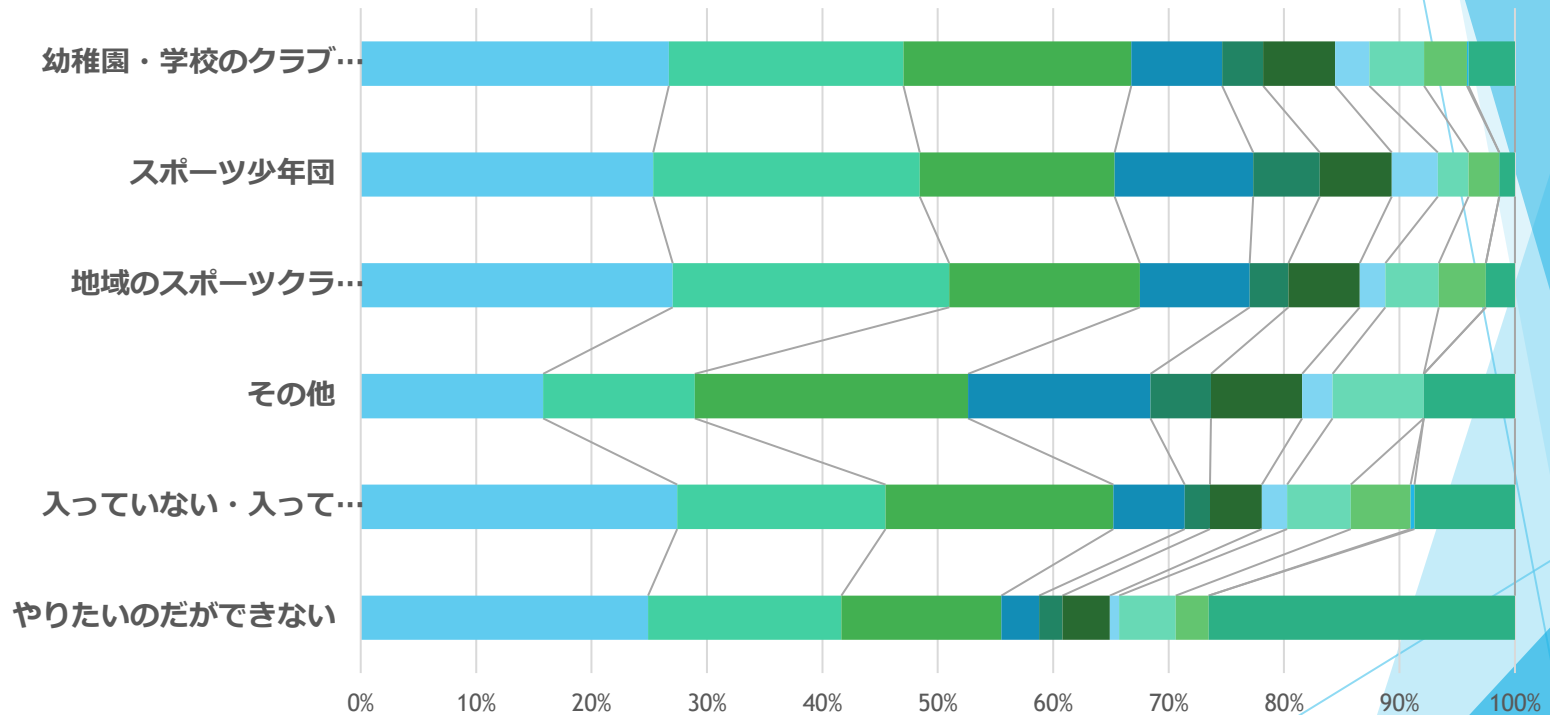
世帯収入



# 親の信頼する子育て情報源

子どもが運動やスポーツをしている機会・場所

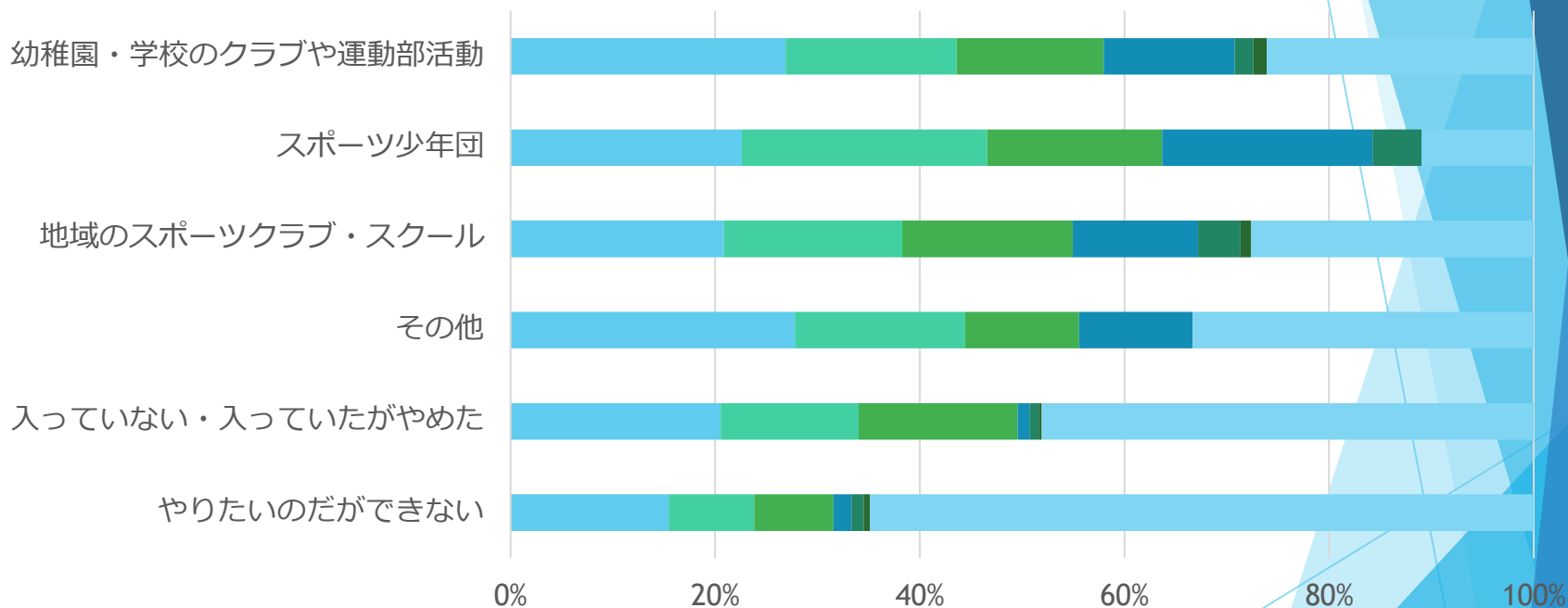
- 自分や配偶者の親・兄弟・親戚
- 学校や幼稚園などの先生
- 育児の専門書
- 育児系以外のテレビ・ラジオ・雑誌・新聞など
- その他のインターネットサイト
- 信用する情報源はない
- 友人・近所の人
- 習い事の先生
- 育児系のテレビ・ラジオ・雑誌・新聞など
- 口コミサイト・ブログ・SNS
- その他



信頼する子育ての情報源がないと答えた人は、子どもが地域でスポーツを「やりたいのだけできない」例で、その割合が高くなる。

## 親の地域社会活動への関わり

- 町内会や自治会
- P T A
- 自身のスポーツ以外のサークル・ボランティア
- 特に関わっていない
- 子供会や少年団
- 自身のスポーツサークル・ボランティア
- その他の地域・社会活動



何らかの地域活動にかかわっていない親の割合は、子どもが地域でスポーツを「やりたいのだけどできない」例で、その割合が高くなる。

# 子どもの運動主観 (フィジカルリテラシーの心 理・認知)

- ▶ 子どもが運動好きになったきっかけとしては、親の運動嗜好にかかわらず、学校や地域での授業やクラブ、スクールで楽しい経験をしたことが最も多い。一方で嫌いになったきっかけとしては、もともとの苦手意識（あまり得意ではなかった）が最も多い。
- ▶ 信頼する子育て情報源がないと答えた親は、そうでない親に比べ、子どもの運動スキル（自転車に乗れるかどうか）、外遊びの状況（外遊びの友達の数）を把握していない割合が高かった。

| 親が信頼する子育て情報源と<br>子どもの運動スキル/量の把握 | 子どもが自転車に<br>乗れるかわからない | 外遊びの友達の数<br>がわからない |
|---------------------------------|-----------------------|--------------------|
| 全体 (1000人)                      | 5.4%                  | 23.0%              |
| 信頼する子育て<br>情報源なし (166人)         | 18.1%                 | 52.4%              |
| 重視する子育て<br>価値観なし (49人)          | 49.0%                 | 81.6%              |

# 子どもが運動好き・嫌いになったきっかけ

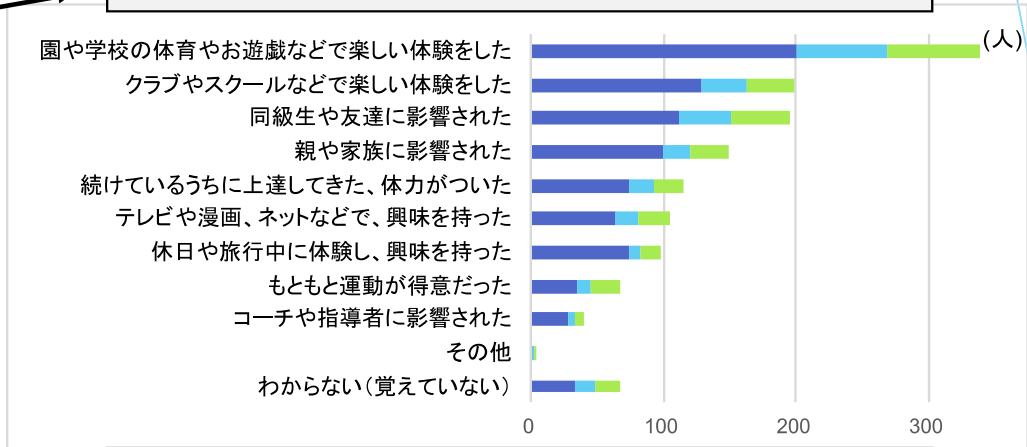
Q あなたのお子さんは運動が好きそうに見えますか？

そう思う  
364人  
まあそう思う  
350人

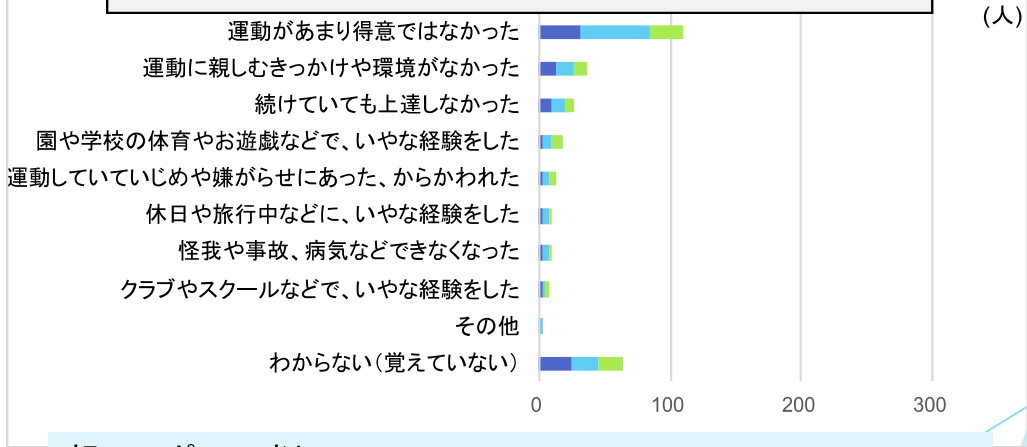
余りそう思わない  
186人  
全く思わない  
52人

わからない  
48人

Q お子さんが運動を好きになったきっかけは？



Q お子さんが運動を嫌いになったきっかけは？



親のスポーツ嗜好

■ 好き (492人) ■ 嫌い (255人) ■ どちらでもない (253人)

## 量的調査（オンラインアンケート）のサマリー 子どものフィジカルリテラシーに影響を与えうる主要因

### 親の客観的要因：

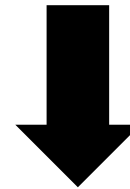
- ◆家庭の収入・時間（ある程度の余裕が必要）

### 親の主観的要因：

- ◆親の社会関係資本：  
（地域とのつながりや、信頼できる子育て情報源）
- ◆スポーツ・健康・子育て、特に
  - ①親のスポーツに対する態度や価値観
  - ②親の子育てへの態度や関心
  - ③家庭の普段の生活態度（健康・幸福）

これらの要因が低いと  
子どものフィジカルリテラシーが  
低い傾向

- 特に子どもの
- ・ 心理（運動感情）
  - ・ 身体（運動実施機会）



さらなる深堀の余地

- 家庭の客観的要因は、スポーツ行政だけでは変えられないが、**家族と子どものスポーツや健康・発達に関する意識・態度の働きかけは可能。**
- **スポーツを接点とした、親子と地域社会のかかわり方についても、新たなモデルを模索する余地がある。**



## 【考察・結論】

- ほとんどの親は、子どもがスポーツと関わることには肯定的であり、親の時間や家計が許す限り、なるべく子どもの運動機会を実現してあげようと思っていることがうかがえる。また親のスポーツ歴・スポーツ嗜好にかかわらず、我が子が実際に何らかの地域スポーツにかかわっている場合には、その意義を認めている割合が高い。しかし子どものやる気を積極的に引き出したり、部活や習い事を辞めた後でもスポーツや運動を続けるように勧めたりする親はさほど多くない。
- 現在発行されている、保護者向けの子どものスポーツに関するガイドブックには、幼児期の運動の大切さや、子どもを様々な面で励ますような言葉かけの重要さが示されている。しかしこうした意見に賛同していない親は、自分の子どもが運動好き・運動が得意とは思っていない割合が高く、実際に子どもにスポーツ経験を与えていないことが多かった。
- したがって「子どものフィジカルリテラシーは、よい指導がなければ身に付かない」ということを知り、たとえ自分が一緒に運動できない場合でも、学校や地域で子どもが楽しく身体を動かす機会を確保できれば、それでよいというメッセージを伝える必要がある。

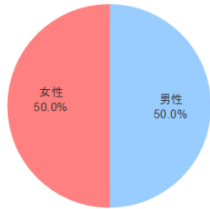
## (続き)

- 現在、運動系の部活動や習い事といった、学校体育以外に身体を動かす場に我が子を送りだしていない親にとって、その阻害要因は何なのか、どうすれば送り出していいと思えるか、さらに理解を深める必要がある。
- また、現状の子ども向けスポーツプログラムの効果をさらに上げるためには、子供た小さいうちからフィジカルリテラシー全般を育むような働きかけを、家庭でも行ってもらうことが不可欠である。
- ◆ **例えば、実際に子どもを習わせている親たちが、「スポーツが子どもの成長面にもたらしていると実感している効果」をより具体的に地域社会の中で伝えていくことは、現在スポーツ系の習い事に関心がない親に対する誘引となりえると考えられる。**
- ◆ **こうした親の態度を引き出すためのアプローチを考慮するに当たっては、親の客観面だけでなく主観面、特にアンケート結果で子どものフィジカルリテラシー獲得と相関の高かった、親のスポーツへの関心、健康への関心、子育てへの関心、そして地域とのつながりについて、セグメント化を行うことが有効であると想定される。**

# オンラインアンケート (2022年調査)

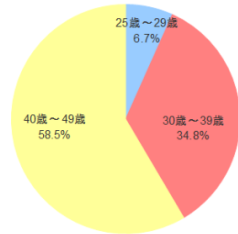
# 2022年調査 回答者 (保護者) の属性 ①

## 性別



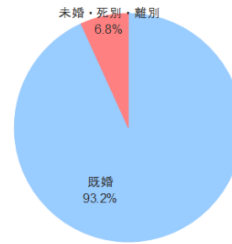
(n=1,000)

## 年代別



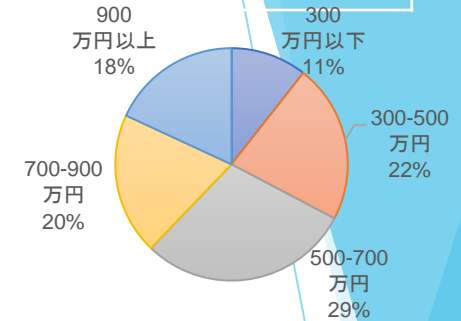
(n=1,000)

## 婚姻状況

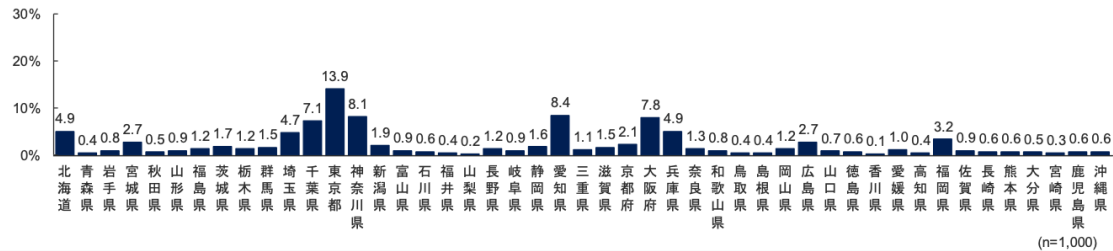


(n=1,000)

## 世帯収入



## 居住地



(n=1,000)

## 回答者 (親)

- 5-15歳の同居する子どもを持つ, 全国の男女各500人 (合計1,000名)
- 平均年齢 49.0歳

## 回答対象児童

- 5-8歳 - 415人 (男子221, 女子 194)
- 9-12歳 - 358人 (男子166, 女子192)
- 13-15歳 - 227人 (男子113, 女子114)

(c) 日本スポーツ振興センター

※：質問内容、並びに調査委託会社は、2018年と同様。  
 ※ 回答対象児が複数いる場合は末子。なお前回実施時 (2018年) は回答対象児に5-8歳が多くなったため、今回はなるべくばらつきが出ないようにした。

# 2018年と2022年の回答結果比較

(p<0.01を抜粋)

運動実施状況には  
統計上有意に差はないが、  
子どものフィジカルリテラシーに  
影響を及ぼしうる要素が  
ネガティブな方向に

|           |                     |   |
|-----------|---------------------|---|
| Q1        | 起床時間                | (遅) 親・平日/ 子・休日  |
| Q2        | 就寝時間                | (遅) 子・平日/ 子・休日  |
| Q4        | 子どもの画面時間            | (+) 平日/ 休日  |
| Q6        | 家庭生活の普段の様子、決まり事     | (-) 親の意見を言う前に子どもの意見を聞いている   |
| Q10       | 親の地域社会活動            | (-) 町内会や自治会、自身のスポーツサークル・ボランティア<br>(+) 特に関わっていない   |
| Q16       | 今後習わせたい・体験させたいもの    | (-) 学習塾・そろばん・知育プログラム/ 音楽・楽器・声楽/ ダンス・バレエ・チア・日舞・演劇<br>(+) あてはまるものはない                                      |
| Q17 & Q18 | 子どもの自由な運動・遊び        | (-) 平日 (時間) / 一緒に遊ぶ友達の数   |
| Q22       | 子どもの好きなスポーツの把握      |   |
| Q23       | 子どもの運動時の様子          | (-) 集中・没頭<br>(+) 子どもの運動している様子を見ていない、分からない   |
| Q24       | 子どもの運動有能感           | (-) 自信があるように見えるか  |
| Q25       | 子どもの運動嗜好            | (-) 運動が好きかどうか   |
| Q28       | 子どもの運動系習い事の場所       | (-) 幼稚園・学校のクラブや運動部活動<br>(+) 入っていない・入っていたがやめた  |
| Q31       | 親の青少年スポーツ観          | (-) 子供に好きなスポーツを選ばせた方が良い/<br>親子が日頃から一緒にスポーツをしたり見たりすることは子どもの成長にとって大事だ/<br>自分の子供を指導するコーチと話をしたり聞いたりすることは大事だ |
| Q33       | 親のスポーツメディア視聴時間 (平日) |   |
| Q35       | 親子一緒に運動時間 (平日)      |   |
| Q36       | 親の運動嗜好              |   |
| Q39       | 親がスポーツ一般に期待すること     | (-) 目標達成感ややりがい、自信を味わう/ コミュニケーションスキルが身につく/<br>礼儀やマナーが身につく/ 仲間や友達ができる、話題のネタになる/<br>仕事や学業にも役立つスキル・人脈が身につく  |

## 2022年調査からの含意・考察

- ▶ 国の悉皆調査(スポーツ庁、2021)では、子どもの身体活動量の低落や運動感情の悪化が、コロナ禍によって拍車がかかっていることが示唆されており、本調査も同様の結果を示した。また親が子どもにスポーツをさせよう(させてもよい)と思う家庭環境要因も、客観・主観の両面で改善がみられなかった。東京2020大会も、スポーツへの期待や好感度を持続的に変化させるものではなかったと推察される。
- ▶ 運動系の習い事をしていない子どもの理由として、「子どもがやりたがらない」を挙げる人の割合が増えている。また「用具が手に入らない」など、スポーツになじむ環境にない子どもたちでは、運動好きである割合も低いことも気にかかる。
- ▶ 前回調査よりも親の社会関係資本が低落していることを踏まえれば、子どもを地域スポーツに送り出す上での親の判断材料不足につながる可能性が高まることも予想される。
- ▶ 地域社会とのつながりの薄い親子を場に引き出す取り組みも同時に行うことが、一層重要となる。例えばホストタウンのレガシー事業のように、単に身体を動かすのみならず、地域の魅力や人とのつながりといった多様なスポーツの価値を体感できるような取り組みをその契機とすることも一案であろう。

# 質的調査・デプスインタビュー (2020年調査)

# 子どもに地域スポーツ参加\*させていない母親への深掘り（デプス）インタビュー

\*子どもの地域スポーツ：運動部活動や、運動系の習い事（地域のスポーツスクール、クラブ、少年団など）

## 【目的】

- ▶ 現在、我が子を地域スポーツ活動に参加させていない保護者に対して、自治体や地域スポーツ関係者がどのような支援や働きかけを行えば、保護者が子どもたちを参加させられるようになるか（あるいは参加させても良いと思うようになるか）について、理解を深めること。

## 【業務委託先・内容】

- ▶ 株式会社アスマーク（本社：東京渋谷区）、以下のインタビュー実施（対象者のリクルート、インタビュー録取作成を含む）

## 【スケジュール／インタビュー実施・場所・時期・納品】

|                           |  |
|---------------------------|--|
| 2020（令和2）年：2月5日（水）～10日（月） | 委託契約後、対象者リクルート条件の確定                              |
| 12日（水）～18日（月）             | リクルート開始、対象者の確定                                   |
| 22日（土）～23日（日）             | 実査 於：JSC（本部棟B101会議室、JSC日本青年館ビル7階会議室）             |
| 28日（金）                    | インタビュー録取全件の納品（JSC本部への持参または記録郵便） → JSCは10営業日以内に検品 |

## 【インタビューの方法】

- ▶ インタビュー：時間は1対象者につき、60分。対象者同意の上で録音することとし、後日書き起こしを行う。調査会社が手配したモデレーターによる、1対1での対面聞き取り。記録者1名ならびに、被験者同意手続きのためにJISS研究員1名が同席する。
- ▶ ・対象者への謝金：1名7千円（後日調査会社より送付）、交通費は支給しない。

## 【インタビュー対象者とその選定】

- ▶ 別紙に述べる2つのセグメントにつき、各4名（計8名） ※量的調査（オンラインアンケートに基づくセグメント）

## 【法的関係、その他】

- ▶ ・契約書において、両者は機密保持、法令遵守、個人情報保護管理や情報セキュリティなどに最大限の注意を払う。
- ▶ ・個人情報：原則として、調査会社のみが保有。JSCは録取のみ受け取り、音声記録は調査会社が破棄。
- ▶ ・知的財産権：JSCが保有。
- ▶ ・倫理審査：JISS 済



別紙：インタビュー対象者の選定について

|  |   |  |   |                          |  |
|--|---|--|---|--------------------------|--|
| スクリーニング  | Must  | 3歳から15歳の子どもを持ち（子どもが複数いる場合は末子）、その子に現在、運動系の習い事や部活動をさせていない、首都圏在住の成人女性（スポーツ・体育・教育関係者以外）  |   |                          | 【別紙GT票質問例】<br>SC1～9<br>Q12習い事現在<br>Q24sq子のスポーツ嗜好<br>Q36親のスポーツ嗜好    |
|  | 割付  | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの性別、運動好き嫌い</li> <li>世帯収入（年間350万円以上1千万以下？）</li> <li>居住地（都市区分）＊地方都市ともなるべく条件に近い「郊外のベッドタウン」が含まれる</li> <li>母親：職業（兼業・専業）、母親自身の運動好き・嫌い</li> </ul> |   |                          |  |
| セグメント  | 軸   |  | 子育て価値観・<br>家庭生活のきまり   | 親の地域との関わり<br>信頼する子育て情報源  | 健康・<br>スポーツ  |
|  |   |  | 別紙GT票質問例  |                          |  |
|  |   | 現在は運動系の部活動や習い事をしていなくても、何らかの働きかけがあれば、子どもに積極的に運動をさせようとする可能性が高いと推測される層  | Q1-3&4子の起床時間（特に休日）<br>Q6家庭生活の様子（特にQ6-3,5,7）<br>Q7子育てで重視<br>Q22体力テスト把握 | Q11親の地域社会活動<br>Q12子育て情報源 | Q31子供スポーツ意見（特にQ31-1,4）<br>Q33親スポーツ情報接触<br>Q34親の運動時間<br>Q39スポーツへの期待 |
|  | A: 子どもの発達・教育に関心が高く、家族の健康にも気をつけているが、地域社会とのつながりがあまりない。  | ○  | ×   | ○                        |  |
| B: 子どもの発達・教育に関心が高く、地域活動にもよくかかわっているが、健康やスポーツにはあまり関心がない。 | ○   | ○  | ×   |                          |  |
| 実査   | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭において、子育てや習い事を決める要因は何か</li> <li>運動系の習い事をさせていない理由 &amp; 何が変われば、させてもよいと思うか</li> </ul> |  |   |                          |  |

【参考】

JSC 子どものフィジカルリテラシー習得に関する家庭環境調査 (2018)

- パンフレット [https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/jsc\\_insight\\_kodomo\\_1903brochure.pdf](https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/jsc_insight_kodomo_1903brochure.pdf)
- GT票 [https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/jsc\\_insight\\_kodomo\\_1907grandtotal.pdf](https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/jsc_insight_kodomo_1907grandtotal.pdf)
- 質問一覧 [https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/jsc\\_insight\\_kodomo\\_1907questionary.pdf](https://www.jpnsport.go.jp/corp/Portals/0/joukoku/jsc_insight_kodomo_1907questionary.pdf)

# 当日・被験者事前質問用紙

インタビュー  
実施前の  
待ち時間に記入

お子さまに関する調査 事前アンケート

| 名前         |                              |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |
|------------|------------------------------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|
|            | 4時                           | 5時 | 6時 | 7時 | 8時 | 9時 | 10時 | 11時 | 12時 | 13時 | 14時 | 15時 | 16時 | 17時 | 18時 | 19時 | 20時 | 21時 | 22時 | 23時 | 24時 | 1時 | 2時 | 3時 |
| ご自身のスケジュール | 家事や仕事、趣味や家族とのだんらんの時間の使い方について |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |
| お子様との関わり   | 平日、子どもとしかかわる時間の頻度・長さ         |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |    |    |

# 続き

|   | ・習い事名<br>・校外学習名 | 開始時期  | 頻度  | 月謝（会費） | 目的・期待する効果                      | その他   |
|---|-----------------|-------|-----|--------|--------------------------------|---|
| 例 | 英会話             | 幼稚園年長 | 週1回 | 5千円    | ・外人をみてもドキドキしない<br>・学校の成績を上げるため | ・将来の就職に役立つ<br>・自分の英語コンプレックス解消<br>・パーティで海外の文化を習得 |

習い事の実際と、  
そこに期待していること

お母様ご自身のスポーツや部活動経験について

自身のスポーツ嗜好やこれまでの経験など

それぞれ当てはまるものに○マルを付けてください。



|                        |            |  |                        |                           |
|------------------------|------------|--|------------------------|---------------------------|
|                        | (例)        | 体育の授業（好き・嫌い・どちらでもない）                       | 部活動（運動系・文化系・入っていないかった） | 学校以外のスポーツ活動：ダンスサークル、ジョギング |
| 最終学歴に○マルをつけてください。      | 中学校        | 体育の授業（好き・嫌い・どちらでもない）                       | 部活動（運動系・文化系・入っていないかった） | 学校以外のスポーツ活動：              |
|                        | 高校         | 体育の授業（好き・嫌い・どちらでもない）                       | 部活動（運動系・文化系・入っていないかった） | 学校以外のスポーツ活動：              |
|                        | 短大<br>専門学校 | 体育の授業（好き・嫌い・どちらでもない）                       | 部活動（運動系・文化系・入っていないかった） | 学校以外のスポーツ活動：              |
|                        | 大学         | 体育の授業（好き・嫌い・どちらでもない）                       | 部活動（運動系・文化系・入っていないかった） | 学校以外のスポーツ活動：              |
|                        | 大学院        | 体育の授業（好き・嫌い・どちらでもない）                       | 部活動（運動系・文化系・入っていないかった） | 学校以外のスポーツ活動：              |
| (c) 日本スポーツ振興センター<br>現在 |            | スポーツを見る（好き・嫌い・どちらでもない）<br>* TV観戦やスタジアム観戦など | スポーツをする（好き・嫌い・どちらでもない） | 2023/3/31<br>現在のスポーツ活動：   |

# 当日・インタビューフロー

調査会社に所属する専門の  
モデレーター（インタビュアー）  
による半構造インタビュー

| おさまに関する調査  |    | 質問内容  | 備考目的/注意点   |
|--|----|---|--|
| <p>■目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子育てを巡る生活全般の背景、行動動機を把握する</li> <li>「育」に対する価値観・意識・態度を把握する</li> <li>上記を聴取することで、お子様がスポーツを思う魅力点・ハードル・未充足ニーズを把握する一助とする</li> </ul> |    |   | <p>※スポーツだけでなく、生活全般の意識・行動動機を聴取するためインタビューのタイトルを「お子様に関する調査」としました。宜しいでしょうか。（もちろん、変更可能です）</p> <p>JSC: 「お子様の成長や習い事に関する、お母様の考え方やご家庭の様子についての調査」...だと長いですか???</p> <p>・「調査目的」に沿ってインタビューを作成しております。目的に相違があった場合（もしくは過不足があった場合）フローの内容が違ってまいります。お手数を追加して申し訳ありませんが、間違いのないようご確認頂きますと幸いです。</p> <p>JSC: OKです！</p> |
| 10   | 10 | <p><b>1 開始挨拶/自己紹介</b></p> <p>(1) 開始挨拶/自己紹介・個人情報の取扱いに関する説明<br/>本日はお忙しいところ、お集まり頂きましてありがとうございます。<br/>来子が小学～10歳のお子様をお持ちの方に絞って頂き、いろいろなお話を伺うことで今後の参考にさせていただきます。<br/>分析を目的とし記録をとりますが、今回の目的以外に使用することはありません。</p> <p>(2) 自己紹介<br/>- お名前、お住まい（市区レベルまで）、同居家族（お子様は学年、性別も）<br/>- ご夫婦のご職業（業種/職種）<br/>- 趣味/関心事<br/>- お金や時間を掛けていること<br/>- お子様の現在の習い事<br/>- 習い事の頻度/目的・開始した理由/費用/満足度</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者の属性を確認する</li> <li>アイスブレイク</li> <li>ラポールの形成</li> <li>人となりの確認</li> </ul>   |
| 20   | 10 | <p><b>2 子育てを巡る日常生活について</b></p> <p>ここからは平日・休日の過ごし方についてお話を伺います。</p> <p>(1) 平日・休日の過ごし方<br/>● お子様と一緒に過ごすとき、どこで、どのようなことをしていますか<br/>(家で過ごす時間)<br/>- 家で過ごす様子<br/>- 家で過ごす様子<br/>- 一緒に絵本を読んだりテレビやおもちゃをさせ、自分はスマホなど<br/>(外出する場合)<br/>- 外出するエリア/施設名（公園、公民館、習い事、買い物、外食など）<br/>- 誰と、どのようなことをしているか<br/>● 休日は、どのように過ごしていますか<br/>- 休日ならではの過ごし方はあるか<br/>(例:ババが子どもと公園/ママはヨガ/ランニングなど)<br/>● お子様との理想的平日・休日の過ごし方とはどのようなものか<br/>- (理想が実現できていない場合) なぜ、それができないのか</p> <p>(2) 地域での子どもとの過ごし方について<br/>ここからは、ご自身が住まわれている地域での子育てについての満足点・不満足点についてお伺いします。<br/>● 地域での生活で、満足している点・不満足点を教えてください<br/>- どのような関わりがあるか（子ども会、読み聞かせボランティアなど）<br/>- 満足・不満足の原因/未充足ニーズ<br/>- (有料/無料に関わらず) 地域にこういう施設やサービスがあったらいいなと思うこと<br/>- その理由<br/>● 子育てを巡る中で、不満や不安を感じていることについて<br/>地域以外に、<br/>● 子育てを巡る中で、不満や不安を感じていること<br/>- 「ご自身」が不満や不安を感じること<br/>- フォンカルだけでなく、精神的にほいほいモノコト<br/>(純粋な発端がない場合)<br/>- 頑張っていることを、ママが褒めてもらいたいか<br/>- 心の安らぎがほしいか→どうしたら安らげるか（例：静かな自分だけの時間が持てるなど）<br/>- 子育てに関する情報はきちんと取れているか<br/>- どこで情報を得ているか<br/>- 信頼できる情報源は何かその理由<br/>その不満・不安解消に学校や幼稚園、自治体、地域サークルが関与してくれる場合<br/>● 参加したいと思いませんか<br/>- 期待すること<br/>- 躊躇すること/不安に感じること（人間関係が難しそう、親の手配が難しそうなど）<br/>→そのハードルがなければ、参加したいか</p> | <p>よくある日の過ごし方を聴取する</p> <p>親が子どもにどのように関わっているか、また、生活の中でどの満足点・不満足点を確認する</p> <p>お子様に深く関われない要因を確認する（親の現在の欲求や悩みを明らかにする）</p> <p>自治体や地域社会への関わりと意識を確認する</p> <p>JSC: 念のため、お子様に関わらない活動なども、有無を尋ねてください。例えば<br/>・ご自身の趣味のサークルやスクール・町内会（子ども会に限らず）<br/>などでしょうか。</p>   |

## 自己紹介

- ・ 家族構成
- ・ 本人の状況（趣味や仕事、関心事）
- ・ 子どもの習い事

## 子育てにおける価値観や優先度

- ・ 子どもとのかかわり方（平日・休日）
- ・ 子どもの外出（平日・休日）
- ・ 地域とのかかわり方、ニーズ、困りごと
- ・ 母親としてのニーズ（参加したいイベントとはどのようなものか）

# 続き

|    |    |  |                 |  |
|----|----|--|-----------------|--|
| 35 | 15 | 3 習い事に対する意識について  |                 |  |
|    |    | <p>(1) 子育ての方針について<br/>話は少し変わりますが<br/>● どのお子さんに習ってほしいと想ってますか/子育ての方針を教えてください<br/>- その理由</p> <p>さて、ここからはお子様のお習い事をテーマにお話を伺います。</p> <p>(2) 習い事に対する意識について<br/>※ 自己紹介で伺った習い事名を挙げ<br/>● お子さまにその習い事をさせているのはなぜですか<br/>- 主目的（それは家庭では代替できないかを聴取→習い事の価値を確認する）<br/>- 主目的以外の価値・目的はあるか<br/>例：親が自由になれる時間ができる、ママ友と知りあえる、先生に褒めてもらう我が子を見たいなど</p>   | ・習い事の価値について確認する | <p>JSC: 子育ての方針として、<br/>「ママがなって欲しいと思う大人になるために、お子さんにとって必要なこと（お子さんの将来の人生にとって大事だと思うこと）を、今お子さんが嫌がってやらないとしたら、どうしますか？」<br/>も話の流れの中で聞いていただけるとありがたいです。（スポーツに限らず）</p>  |
| 40 | 5  | 4 スポーツに関する意識について   |                 |  |
|    |    | <p>(1) スポーツに対する意識について<br/>※ ここでの「スポーツ」は、「身体を動かすこと」を指す（リトミックやダンス、個人競技、団体競技、スイミングなど、方角リ、運動量、難易度など関係ない）と伝える<br/>● ご自身のお子様がスポーツをする中で、どのようなよいことがありそうですか<br/>- そのイメージは、どこからくるか（自身の体験か、伝聞か）<br/>- ご自宅でも、何かやらせて（やっ）ているか<br/>例：庭でバドミントン、YouTubeに合わせたダンスなど</p> <p>● 逆に、お子様がスポーツをすることで、よくないこともありませんか<br/>- お子さまにスポーツをさせるハードルは何か（自身の体験か、伝聞か）</p> <p>● スポーツ教室や少年団に入って、どのようなイメージを持っていますか<br/>- よいイメージ<br/>- 悪いイメージ/不安なこと/ハードル</p> <p>(2) スポーツを習わせない（所属させない）理由について<br/>● （他の習い事をしているのに）スポーツの習い事をしていないのはなぜですか<br/>- その理由<br/>- 何が妨げられたら/どうしたら/何があれば参加してみようと思うか</p> | ・スポーツの魅力点・不満点   | <p>JSC: 先日の打合せでご指摘があったように、事業提供者によって「イメージ」が異なる場合は、それも聞いていただけたらありがたいです。<br/>ただし2-(3)で「不満・不安解消に学校や地域が関わってくれれば」とのところが重なるかもしれませんが、その辺りのバランスはお任せします。</p> <p>・ご指摘<br/>参加理由は、習い事（集団）でスポーツをする魅力点をご存知ない可能性もあります。（断片的伝達）<br/>最後に、スポーツをするメリットを提示し、これを知ったことで、やらせたい気持ちになるか、何も知ったことでやらせたい気持ちにならなかったかを聴取するというのがいいか。<br/>（提示物が指した方がいいか、提示せずに疑問提起だけで聴取した方がいいのかを聴取する）（現在は提示物からのイメージで作成しています）</p> <p>JSC: ありの方が、良いように思います。が、あまり時間を取られすぎないようにお願いできれば...</p> |
| 57 | 17 | 5 追加質問   |                 |  |
|    |    | ・開会挨拶  | ・事務業務確認         | ・謝礼のお返し  |
| 60 | 3  |  |                 | JSC: 後日郵送となります。念のため...   |

## 子どもの習い事に関する実態・考え方

- ・ 子どもにどんな人になって欲しいか（将来のために、身に付けてほしい知識やスキル、態度）
- ・ 子どもの習い事の詳細（なぜ習わせているのか、目的）

## スポーツ全般に関する考え

- ・ 自分の子どもがスポーツをするメリット・デメリット
- ・ 地域のスポーツに持っているイメージ
- ・ なぜ、スポーツ系の習い事をさせていないか（やめてしまったか）
- ・ どのような条件を整えばやらせてみようと思うか

# インタビューの結果

# 子どもが運動系部活動・習い事をしていない理由

- ▶ 子供を地元の青少年スポーツに行かせない最大の理由について、8人のうち6人の母親が「子どもがやりたがらないから」と答えた。この中には、自身がスポーツ好きの母親や、回答対象児以外にスポーツ好きの子供がいる母親も含まれた。彼らは皆、子供が身体的に活発であり続けることを望んでいるが、やる気のない子供をわざわざ説得しようとはしておらず、特に複数の子供がいる場合は、家族の限られた時間とお金を「やりたくない子どもの習い事」に投資する余裕がないと考えていた。
- ▶ また8人の母親全員が、たまには家族の充実した時間を確保したいと思っており、したがって毎週土曜日に子どもがスポーツクラブに拘束されることを望んでいなかった。ただし親子で一緒に行う活動としては、子どもが一人っ子的な場合、親の運動嗜好にかかわらず、競技志向でないアウトドアレクリエーションは人気のある選択肢であった。しかし年の離れた兄弟・姉妹がいる場合には、運動・スポーツを家族みんなで行うことはめったにないと答えた。
- ▶ また母親自身が運動好きであると答え、自身が定期的に活動しているスポーツサークルに子どもを連れて行ったとしても、その子どもに運動への関心や競技スキルが身に付いていない場合は、その場で子どもを見ていてくれる人がほかにいなければ（親自身が指導しなければならなかったら）、親子ともに活動を楽しめない結果に終わることが多いことも分かった。

# 母親の社会関係資本

- ▶ 親の社会関係資本 (人との付き合いや信頼関係) については、8人中7人の女性が、PTAや町内会などの地域社会との関わりをできるだけ避けたいと答えた。特にセグメントA\*の4人全員が、異なる年齢層の隣人とはほとんど関係がなかった。
  - ▶ セグメントA: 子どもの発達・教育に関心が高く、家族の健康にも気をつけているが、地域社会とのつながりがあまりない。
- ▶ ただしインタビューを受けた母親のなかに、子供の教育に関する情報収集の手段として、無条件にインターネット/SNSに依存しているものはおらず、ほとんどは他のお母さん (主に子供のクラスメートの気の合うお母さん) と定期的にコミュニケーションを取っていた。これは特に学校内外を問わず、子どもをとりまく安心・安全、つまり子供が遭遇する可能性のある虐待やいじめ、嫌がらせなどの危険な環境を回避するための情報収集として、口コミ情報を役立てており、これはスポーツ系の活動にもあてはまった。
- ▶ 一方でそのような母親のネットワークに属していない者が信用する子育て情報源として挙げたのは、自身の両親/兄弟、または学生時代の友達や仕事仲間)にであった。また教育水準の高い3人の母親 (短大以上の学位を取得している) は、信頼する子育て情報源として「テレビで高く評価されている教育者の発言」、「成績トップ校への合格者が推奨する学習方法」「全国的にフランチャイズ化された(ブランド化された) 塾のワークブック」など、何らかの「品質保証」となるものをあげた。



# 地域スポーツへの認識

- ▶ 次に母親たちが地域の青少年スポーツについて抱いている認識を尋ねたところ、結果は以下の通りで、いずれのパターンでも「スポーツがさほど得意でない子どもが、すぐについていけなくなったり、飽きてしまったりして長続きしないこと」を懸念し、気軽に試せる状況にないことが分かった。
- ▶ 特に親の時間・金銭面で負担が少ないはずのコミュニティスポーツクラブですら、「子どもがすぐにやめてしまったら、地域で居心地が悪くなる」と敬遠されていることが分かった。

(表2)母親によるユーススポーツの認識

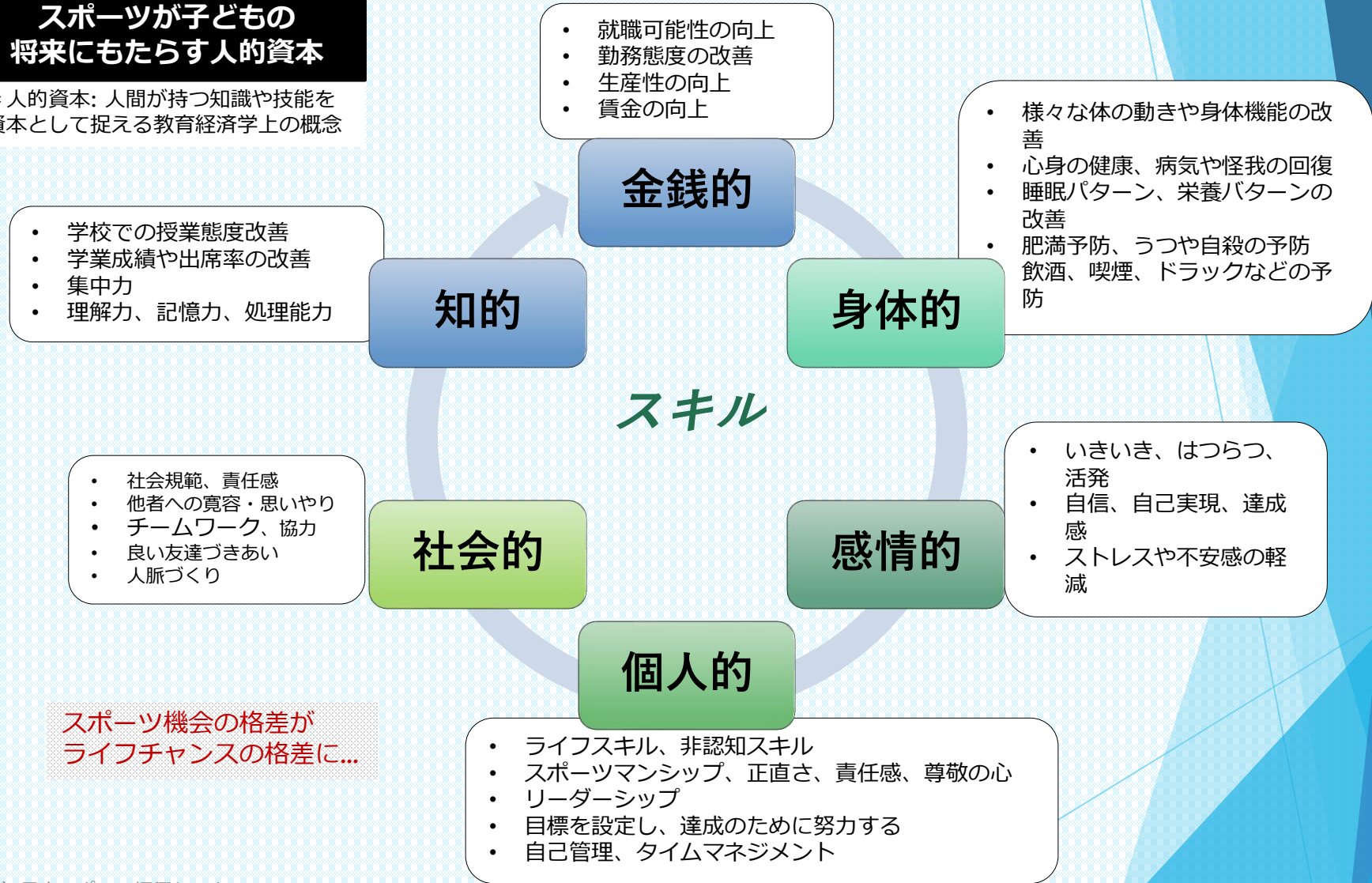
|               | 長所  | 短所  |
|---------------|---|---|
| 民間のクラブスクール    | コーチングとプログラムの質   | アクセスが良くない・気軽に試せない<br>授業料の一括前払い/家の近くになく、親の送迎が必要/パフォーマンスレベルが高く、競争的な雰囲気      |
| コミュニティスポーツクラブ | 家から近く、子どもたちだけで通える/他の参加者もなじみのある顔は安心感/手ごろな参加費/フレンドリーな(ただし資格はない)コーチ/ | スポーツの上達や成功は期待できない(していない)/家に近すぎる(子供がプログラムを続けることができなかつた場合、家族全員にとって厄介かもしれない) |
| 少年団           | 熱心なコーチ、安全な環境(主に学校施設で開催)   | 熱心すぎるコーチ、親の当番など、時間面・心理面での大きな負担  |

# スポーツが子どもの将来にもたらすメリット

- ▶ 8人のインタビュー対象者全員が、他の学校の科目とは異なり、スポーツはわが子の将来の成功・幸福に必要不可欠なものではないと答えた。しかし、インタビューの最後に、青少年スポーツへの参加を通じて開発できる人的資本のリスト (次頁) を示した後は、1人を除いて全員が、スポーツに熱心でない息子や娘に対し、少なくとも試してみるようにもっと強く説得する余地がある と同意した。

**【参考】  
スポーツが子どもの  
将来にもたらす人的資本**

\* 人的資本: 人間が持つ知識や技能を資本として捉える教育経済学上の概念



スポーツ機会の格差が  
ライフチャンスの格差に...

## インタビューの結果のまとめ

現在、スポーツをしていない我が子がいる母親は...

**我が子がスポーツから  
得られるものへの期待が低い  
→お金や時間を投じる優先順位が低くなる**

➢ まあ、学校で困らない程度に、人並みに運動できれば...

➢ 上の子ほどじゃ... / 他に手のかかる子が...

➢ 嫌がるのを無理やりやらせても、身につかないし...

だって、うちの子  
オリンピックに出るわ  
けじゃないでしょ？

### どうせすぐやめるでしょ？

- 入会金や道具の購入...お金がもったいない!!!
- 送り迎えや、お茶当番...そこまでできない!!!
- 近所のクラブをすぐにやめたら、親子共々地域での居心地が...!!!

- 時間とお金は限られている...
- やめたときも心配...

### どうしてもやりたいっていうなら...

- 気軽に試せるなら、やめてもいいなら、
- 親の負担がそこまでないなら...
- スパルタ指導やいじめがないなら... (ママ友情報)
- たまには週末の家族の団欒も... (子ども < "家族")

- 無理強いしてまでは...
- 通わせるなら、安心が

### 親のフィジカルリテラシー不足：

- スポーツがもたらす特定の利点、特に身体的スキルに加えて心理的、社会的、認知的スキルの重要性を知らない。
- 基礎的動作は、習えば身につくものであると知らない。

### 親のソーシャルキャピタル不足：

- 子供が地域スポーツに参加し、あまりにも早くあきらめた場合に、家族全員が近所で感じるかもしれないぎこちなさを懸念
  - スポーツ界における「親であること」へのサポート不足
- **親が健康・発達に関心を持っていれば、自身がスポーツを教えなくてもよい、一緒にしなくてもよい (地域社会の受け皿)**

# 量的・質的調査のまとめ・提言

# 運動系部活動・習い事をさせていない親の「ホンネ」

親の主観的要因：

- 社会関係資本（地域とのつながり・情報源）
- スポーツ・健康・子育て、特に
  - ① 親のスポーツに対する態度や価値観,
  - ② 親の子育てへの態度や関心,
  - ③ 家庭の普段の生活態度

親の客観的要因：

- 収入・時間 (ある程度の余裕が必要)

行動変容における「前関心層」

子どものスポーツのために「何か」を犠牲にはしない

ほとんどの親が「オリンピックの親」のように考えることができるわけではない。

大半の親は、家族の健康と幸福を望み、子供たちの総合的な発達の引き金となるものを求めている。また家族の時間とお金が許す限り、子供たちがさまざまな経験をする機会を与えたいと思っている。だが、子供のスポーツのためだけに家族のライフスタイルを変えることは、実際には容易ではない。

- 部活や習い事をしていない（辞めた）子どものやる気を積極的に引き出したり、スポーツや運動をするように勧めたりする親はさほど多くない。
- スポーツ < 学業（その他の科目）
- 子どものスポーツ < 家族の時間
- スポーツをしているお母さんでさえ、やる気のない子供に教える（一緒にスポーツをする）のが難しいと感じることがよくある。
  - 親が自身のスポーツサークルに子供を連れて行く場合も、本来目的は「自分が楽しむため」。一時的にでも良いので、そこに子供を見ていてくれる人がいれば、親自身も楽しめる。

# 含意

家庭の限られた時間やお金を、子どものスポーツに割いてもらうためには、保護者に肚落ちしてもらう必要がある。



**親の客観面(時間とお金)だけでなく主観面、特に青少年スポーツへの知識・関心や、健康・子育てへの価値観、地域とのつながりについてそれぞれへの態度を考慮したセグメント化を行うことが有効**

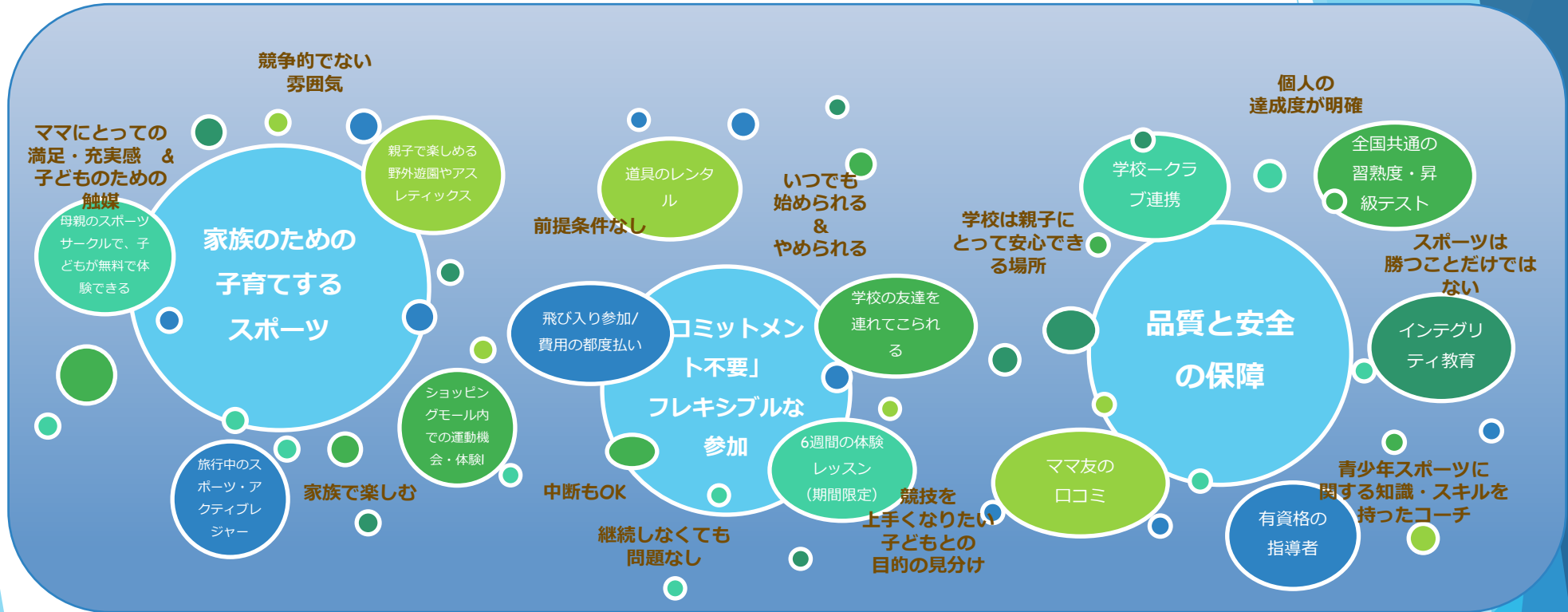
- ママ友のネットワークを介しての口コミ
  - 「スポーツが子どもの成長面にもたらしていると実感している効果」
  - 「安全保証」 - 同時に制度的な品質保証（指導者資格・認証プログラム）
- 場所と費用面でのアクセス確保/ 心理的負担の軽減：
  - 金銭・時間・感情面で、アクセス可能な場所であり続けること
  - やめても、休んでもよい（繰り返し、行動変容にトライできる）
- 「親子一緒に楽しめる」「親が楽しんでいる間、子どもを見ていてくれる」
  - 子どものスポーツのために、親のライフスタイルを犠牲にさせない。
  - 親子のニーズにあわせて、生活の中にスポーツが入り込む。

**フィジカルリテラシーの重要性を主張し続けながら、現代の家族へのアプローチを調整することを検討すべき**

**スポーツ界に家族を適合させようとするのではなく、スポーツが「家族の生活」「子育て社会」の中でスペースを見つける必要がある。**

**そのためにも地域の関係者の連携・協働は今まで以上に重要**

# 家族に寄り添った地域の青少年スポーツのためのヒント



作成：(独)日本スポーツ振興センター